



都市構造可視化計画

課題が見える・やり方が変わる

都市構造可視化計画 活用アイデア集

平成23年3月

関東地方における都市構造のあり方に関する検討会

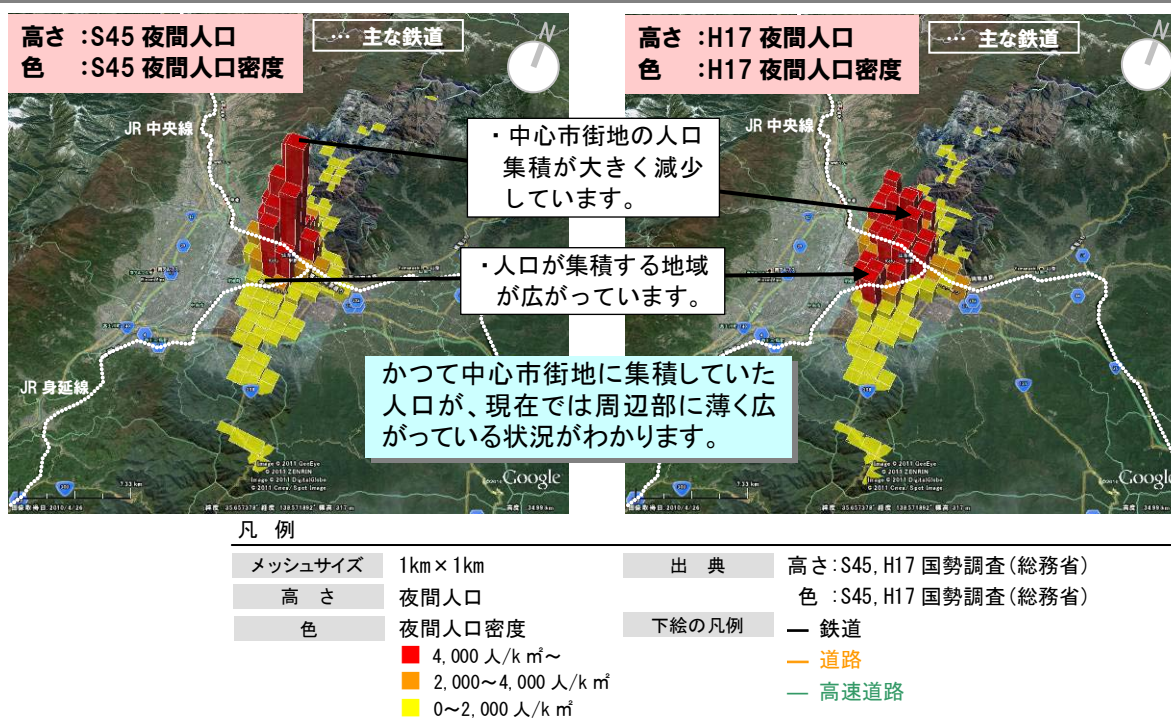
都市構造を可視化してみませんか？

都市構造の可視化とは、人口や事業所、販売額をはじめとする統計データやその他の様々なデータを、地図上で高さや色を使って三次元で表現するものです。これにより、都市構造の現状や課題を視覚的・直感的に把握することができます。

【メリット】

- ① GIS ソフトを導入することなく、統計データに基づく即地的な都市構造の分析ができます (Google Earth を活用)。
- ② 取り扱うデータは、国勢調査や事業所・企業統計などの統計データに加え、土地利用規制や公共交通利用圏のような位置の属性に関するものなど、多様なデータを地域メッシュに基準化することで表示することができます。
- ③ 統計データは三次元で表示が可能なため、高さや色で表示項目を使い分けることにより、視覚的に都市構造を表現することができます。

特徴1. 人口集積などを、経年的に比較することができます

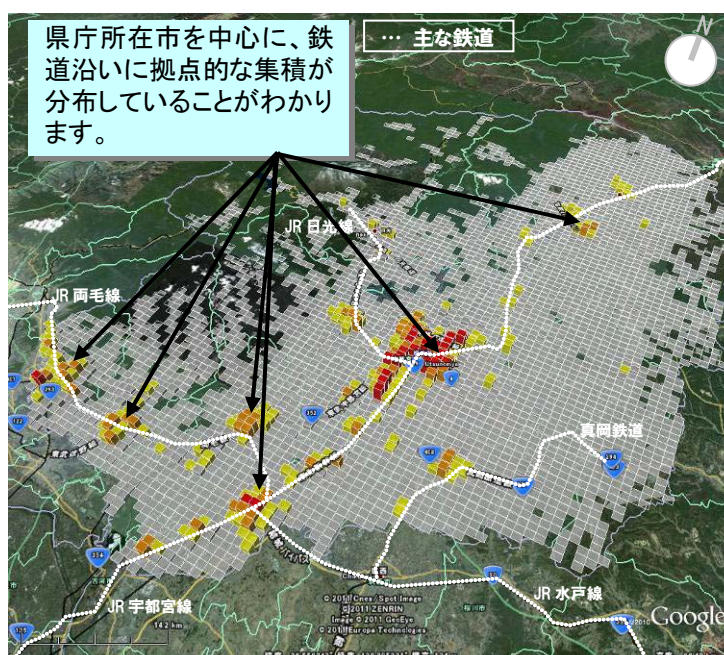


特徴2. 自市だけでなく、広域に表示することができます

高さ : H17 夜間人口
色 : H17 夜間人口密度

凡 例

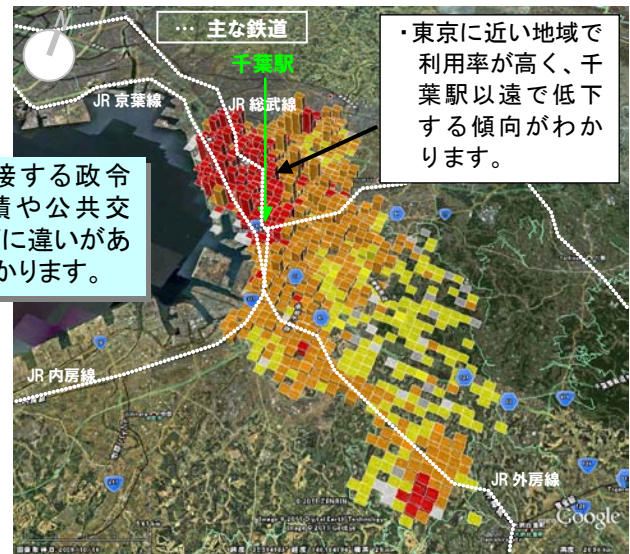
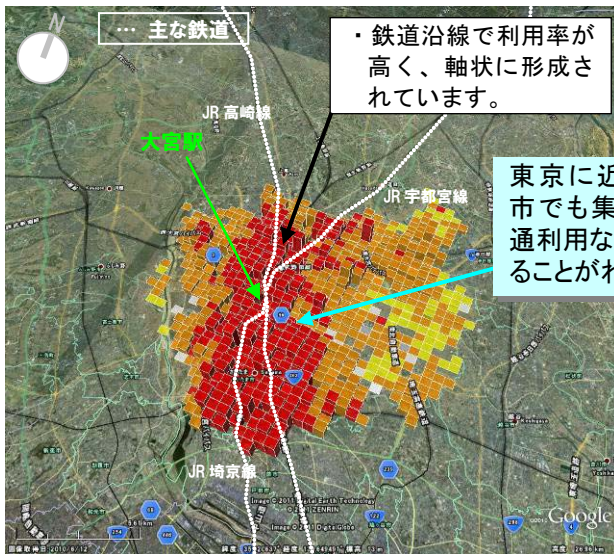
メッシュサイズ	1km × 1km
高 さ	夜間人口
色	夜間人口密度
	■ 6,000 人/k m ² ~
	■ 4,000 ~ 6,000 人/k m ²
	■ 2,000 ~ 4,000 人/k m ²
	■ 0 ~ 2,000 人/k m ²
出 典	高さ : H17 国勢調査 (総務省)
	色 : H17 国勢調査 (総務省)
下絵の凡例	— 鉄道
	— 道路
	— 高速道路



特徴3. 近隣都市をはじめ、任意に選んだ都市と比較することができます

高さ : H12 夜間人口
色 : H12 通勤通学時公共交通等利用率

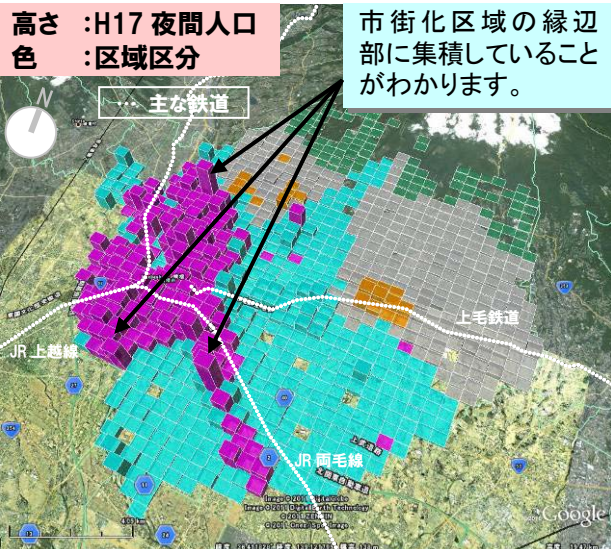
※通勤通学時公共交通等利用率＝
鉄道利用＋バス利用＋自転車利用＋徒歩
通勤通学総数



凡 例

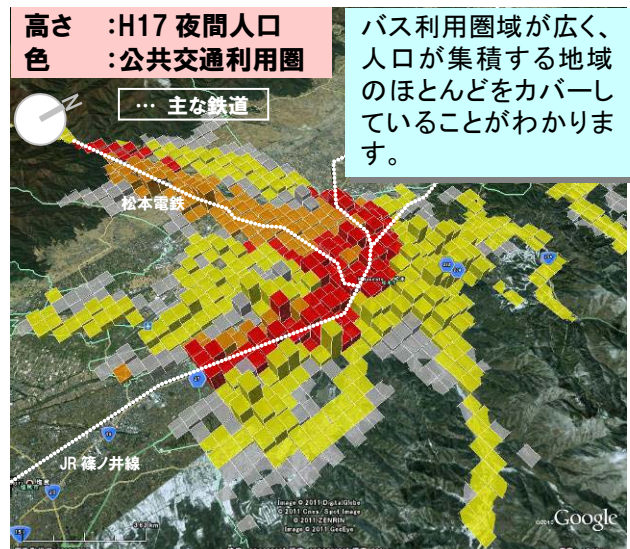
メッシュサイズ	500m×500m	出 典	高さ : H12 国勢調査(総務省)
高 さ	夜間人口	色 : H12 国勢調査(総務省)	
色	通勤通学時公共交通等利用率	下絵の凡例	— 鉄道
	75～100%		— 道路
	50～75%		— 高速道路
	25～50%		
	0～25%		

特徴4. 統計データだけでなく様々なデータのクロス表示ができます



凡 例

メッシュサイズ	500m×500m
高 さ	夜間人口
色	区域区分
	市街化区域
	市街化調整区域
	非線引き用途地域
	非線引き白地地域
	都市計画区域外
出 典	高さ : H17 国勢調査(総務省)
	色 : 国土数値情報 都市地域データ(国土交通省)
下絵の凡例	— 鉄道
	— 道路
	— 高速道路



凡 例

メッシュサイズ	500m×500m
高 さ	夜間人口
色	公共交通利用圏
	駅・バス利用圏
	駅利用圏
	バス利用圏
	駅・バス利用圏外
出 典	高さ : H17 国勢調査(総務省)
	色 : プロトラス全施設データ(アルプス社)
下絵の凡例	— 鉄道
	— 道路
	— 高速道路

目 次

はじめに.....	1
-----------	---

1. 都市構造可視化の概要 2

1-1 システム構築の背景とねらい	2
1-2 図面作成の仕組みと見かた.....	3
1-2-1 統計値の三次元表示	3
(1) 地域メッシュ統計.....	3
(2) GoogleEarthとKML.....	3
1-2-2 図面作成の仕組み.....	4
1-2-3 三次元表示した図の見かた	5

2. 可視化できること 6

2-1 図面作成プロセス.....	6
2-2 可視化できること.....	7
2-2-1 Step1 表示対象範囲を選択	7
2-2-2 Step2 「高さ」の表示データを選択 ～ Step3「色」の表示データを選択.....	8
(1) 人口集積(国勢調査)を活用したもの.....	8
(2) 商業・工業の集積(商業統計・工業統計)を活用したもの.....	9
(3) 事業所・企業統計調査を活用したもの.....	9
(4) 人の動き(PT 調査)を活用したもの.....	10
(5) 公共交通のデータをメッシュ化して活用したもの	10
(6) その他データを活用したもの【地価公示、都市計画基礎調査、ヒートアイランド調査、緑被率調査】.....	11
2-3 都市の集積状況を比較する	13
2-3-1 時間の経過に伴う比較.....	13
(1) 2つの統計調査の年次別比較により時間的変化を見る(都市構造の形成経緯を見る).....	13
(2) 統計調査の年次別増減値(差分)を比較して、伸び率を見る(人口増減が著しい箇所の把握).....	14
(3) 将来人口の推計値と比較する(コホート変化率法(簡便法)を用いた将来人口推計(趨勢)との比較).....	15
2-3-2 都市単位での比較.....	16
(1) 同一規模(人口規模、政令市・中核市・特例市別など)での比較.....	16
(2) 商業圏域(着トリップ設定)の比較.....	17
(3) 世界の都市(一部都市のみ)との比較	18

3. 政策テーマ(課題)の現状分析等..... 20

3-1 都市計画.....	20
3-1-1 土地利用規制の現状分析.....	20
3-1-2 マスタープラン策定のための現状分析.....	21
3-2 交通.....	22
3-2-1 公共交通を取り巻く実態の把握.....	22
3-2-2 高速道の整備効果.....	25
3-3 中心市街地と商業(中心市街地の現状分析).....	27
3-4 高齢化社会(高齢者の生活利便性).....	29
3-5 環境(人工排熱量と人口集積の関係).....	31
3-6 安全・安心(想定水害と人口集積).....	31
3-7 集約型都市構造に向けた課題.....	32

三次元表示システムを活用した都市構造分析のご案内.... 34

はじめに

超高齢・人口減少社会の進展や地球環境問題などが顕在化する中で、持続可能なまちづくりを推進するためには、都市構造の現状分析やそれを踏まえた都市構造の再構築の検討が急務となっています。

このような状況下で、関東地方の都県及び有識者等により構成される「関東地方における都市構造のあり方に関する検討会（以下、「検討会」という）」では、都市構造の分析の手法について検討を進めてきました。

平成20年度から始まった検討会では、都市構造を分析するツールとして、地図データ上に統計データを重ね合わせて三次元で表示する技術を活用し、現状分析に必要なデータや表示・分析方法などについて議論を重ねてきました。

本書は、検討会での3年間の検討結果を踏まえ、今後の都市構造に関する検討を効果的に進められるようなアイデアを取りまとめ、都市構造の分析を実際に行う自治体等の担当者へ広く周知し、支援していくためのツールとして作成したものです。

「1. 都市構造の可視化の概要」では、本取組みの背景と三次元表示の基本的な事項について概説し、「2. 可視化できること」では具体的にどのようなプロセスで組合せ等の条件設定をしていくのかについて例示しています。そして「3. 政策テーマ（課題）の現状分析等」では、実際の実務で政策課題の現状分析を行う場面等を想定し、検討テーマ毎に提案事例として紹介しています。

都市構造の分析を行うにあたっては、本手法以外にも多種多様なデータの活用や多角的な視点での分析が必要となりますが、分析ツールの一つとして地方自治体の皆様に活用して頂ければ幸いです。

【関東地方における都市構造のあり方に関する検討会 委員名簿】

区 分	構 成 員
有識者	日本大学 理工学部 教授 岸井 隆幸
	九州工業大学大学院 情報工学研究院 教授 碓崎 賢一
	建築研究所 主任研究員 石井 儀光
行政関係者	茨城県 土木部 都市局 都市計画課長
	栃木県 県土整備部 都市計画課長
	群馬県 県土整備部 都市計画課長
	埼玉県 都市整備部 都市計画課長
	千葉県 県土整備部 都市計画課長
	東京都 都市整備局 都市づくり政策部 政策調整担当課長
	神奈川県 県土整備局 環境共生都市部 都市計画課長
	山梨県 県土整備部 都市計画課長
	長野県 建設部 都市計画課長
	国土交通省 関東地方整備局 建政部長
オブザーバー	国土交通省 都市・地域整備局 都市計画課 国土計画局 大都市圏整備課
	国土交通省 関東地方整備局 企画部 中部地方整備局 建政部 近畿地方整備局 建政部
	都市再生機構 都市再生企画部 都市再生推進第1チーム 全国まちづくり室 全国まちづくりチーム

1. 都市構造可視化の概要

1-1 システム構築の背景とねらい

これまでの都市構造の分析に関する表現は、小地域での統計データが手に入りにくいことから、単純なグラフや行政区域単位での図化が多く、都市構造を即地的に表現するような取り組みはなかなかみられませんでした。また、GIS も広がりつつありますが、データやソフトウェアが高価で、必ずしも誰もが自由に使える環境とはなっていません。

近年では、地域メッシュ統計（次頁参照）のような標準化された規格に基づいた統計データの整備が進んでいます。また、IT 技術の進歩により、地図データ上に統計データなど様々な情報を付加することが可能になりました。

そこで、都市構造の現状を分析するツールとして、地図データ上に統計データを重ね合わせて表示する技術を活用し、簡便に都市構造の現状分析を行うための必要なシステムを構築しました。

このシステムには、以下のような特徴があります。

- ①GIS ソフトを導入することなく、統計データに基づく即地的な都市構造の分析が可能となります。
- ②取り扱うデータは、国勢調査や事業所・企業統計などの統計データに加え、土地利用規制や公共交通利用圏のような位置の属性に関するものなど、多様なデータを地域メッシュに標準化することで表示することができます。
- ③統計データは三次元で表示が可能なため、高さと色で表示項目を使い分けることにより、視覚的に都市構造を表現することができます。

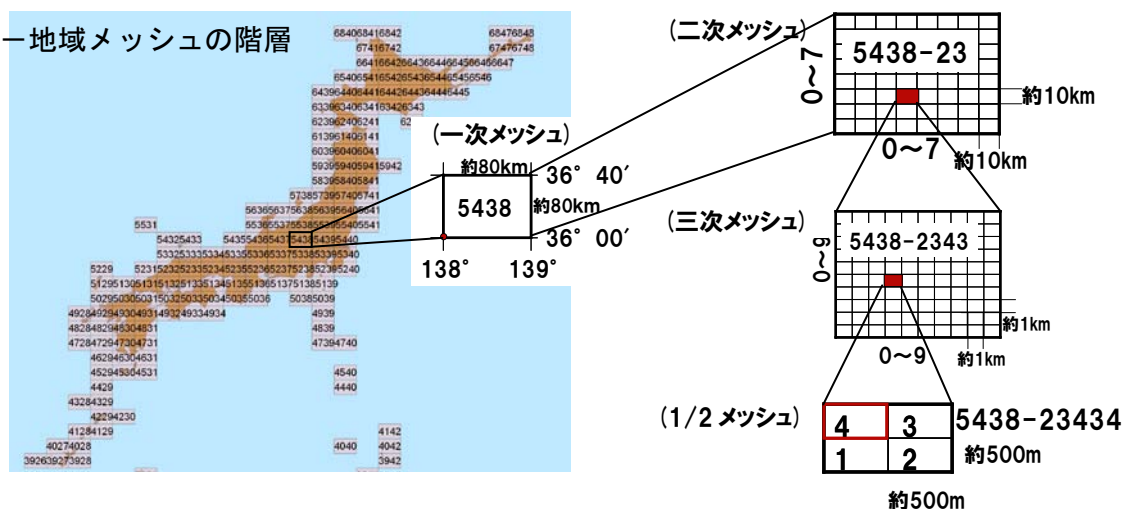
1-2 図面作成の仕組みと見かた

1-2-1 統計値の三次元表示

(1) 地域メッシュ統計

地域メッシュ統計とは、経緯度に基づき地域をすき間なく網の目（メッシュ）の区域に分けて、それぞれの区域に関する統計データを編成したものです。地域メッシュは、ほぼ同一の大きさ及び形状の区画を単位として区分されているので、地域メッシュ相互間の比較が容易であることや、その位置や区画が固定されていることから、時系列的比較が容易なことなどの利点があります。編成されているデータは、国勢調査や事業所・企業統計、商業統計、工業統計などがあります。メッシュの階層は、一次、二次、三次（基準メッシュ）、1/2、1/4に分かれますが、多くのデータは一次から1/2までが編成されています。

図一 地域メッシュの階層

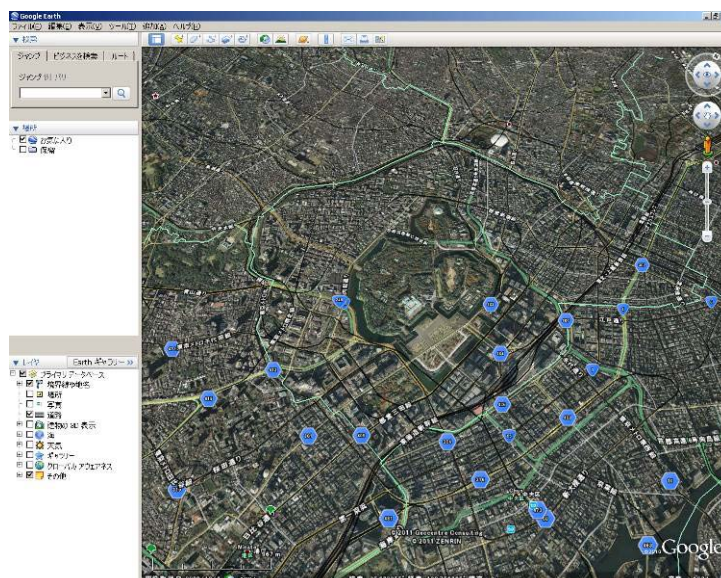


(2) Google Earth と KML

このシステムで表示するソフトウェアは Google Earth を利用しています。Google Earth は、Google 社のホームページから無償でダウンロードできます。マウスでのドラックで地球儀を回すように操作できることから、様々な角度や視点から都市をみることができます。

この Google Earth 上に様々な情報を付加するファイル形式として、KML 形式があり、統計情報と位置情報（メッシュコード）を持ったデータを KML 形式で作成することにより、Google Earth 上で統計データを表示することができます。

図一 Google Earth の表示例



1-2-2 図面作成の仕組み

メッシュコードと関連付けられた統計データ（国勢調査や事業所・企業統計など）から表示したい範囲と統計項目を抽出し、その統計項目に高さ、色を指定して、KML 形式のファイルとして出力することにより、統計データを Google Earth などのソフト上で三次元表示できます。

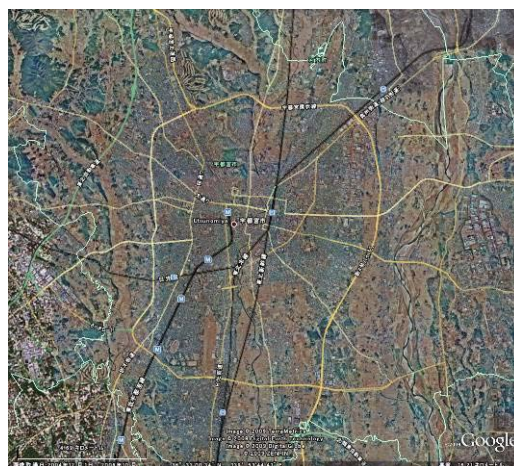
①統計データ

メッシュコードと行政コード、表示したい統計データを抽出(下図の場合、交通利用圏と H17 夜間人口)

メッシュコード	行政コード	交通利用圏	H17夜間人口	H17.65歳以上人口	H17世帯数
544020751	08231	1	178	47	
544020753	08231	0	315	94	
544020754	08231	0	124	38	
544020763	08231	0	19	0	
544020851	08231	0	237	35	
544020852	08231	0	54	25	
544020854	08231	0	8	0	
544020861	08231	0	4	0	
544020951	08231	0	11	0	
544020952	08231	0	143	42	
544020953	08231	0	103	5	
544020954	08231	0	455	55	
544020963	08231	0	61	20	
544020974	08231	0	7	0	
544030051	08231	0	12	0	
544030052	08231	0	339	62	
544030054	08231	0	191	52	
544030061	08231	0	172	40	
544030063	08231	0	546	146	

②地図データ

Google Earth などの KML 形式の表示が可能な地図データを持つソフトを用意

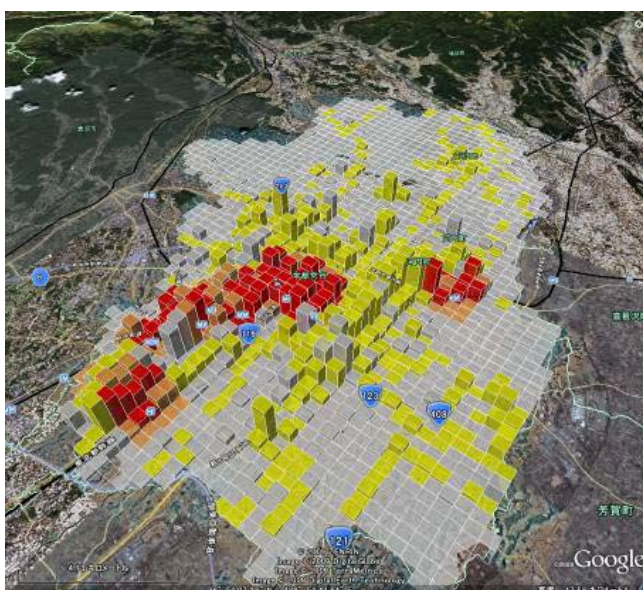


③図面作成

①のデータを KML 形式ファイルに出力して Google Earth などのソフト上で三次元表示

凡 例

メッシュサイズ	500m × 500m
高 さ	夜間人口
色	公共交通利用圏
	■ 駅・バス利用圏
	■ 駅利用圏
	■ バス利用圏
	■ 駅・バス利用圏外
出 典	高さ: H17 国勢調査(総務省)
	色: フォトリソ全施設データ(アルプス社)
	バス停データ(宇都宮市)
下絵の凡例	— 鉄道
	— 道路
	— 高速道路

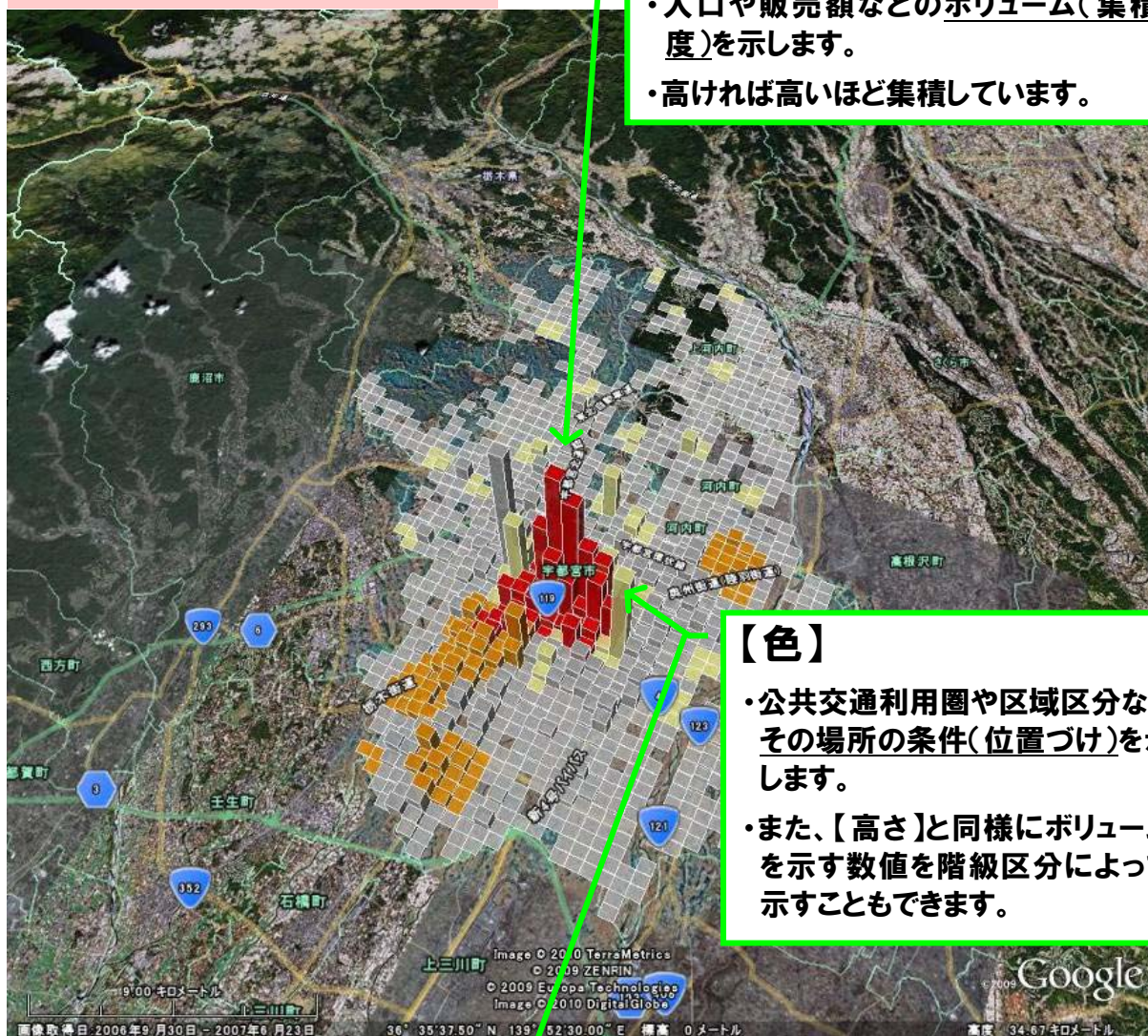


1-2-3 三次元表示した図の見かた

ポイント

三次元の図面作成技術を使って、「高さ」と「色」により都市構造を「可視化」します。

高さ H12 昼間人口
色 公共交通利用圏



【高さ】

- ・人口や販売額などのボリューム(集積度)を示します。
- ・高ければ高いほど集積しています。

【色】

- ・公共交通利用圏や区域区分などその場所の条件(位置づけ)を示します。
- ・また、【高さ】と同様にボリュームを示す数値を階級区分によって示すこともできます。

凡 例

メッシュサイズ	500m × 500m	出 典	高さ:H12 リンク統計(総務省)
高 さ	昼間人口		色 : プ ロトラス全施設データ(アルワ ス社)
色	公共交通利用圏	下絵の凡例	— 鉄道
	■ 駅・バス利用圏		— 道路
	■ 駅利用圏		— 高速道路
	■ バス利用圏		
	■ 駅・バス利用圏外		

※駅利用圏：駅から半径1kmの範囲を含むメッシュです。

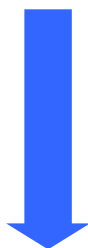
※バス利用圏：バス停から半径300mの範囲を含むメッシュです。

2. 可視化できること

2-1 図面作成プロセス

図面作成のプロセスは、Step1「表示対象範囲を選択」、Step2「高さの表示データを選択」、Step3「色の表示データを選択」の3段階に分かれます。

Step1 表示対象範囲を選択

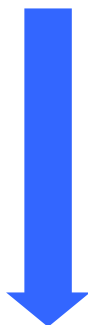


図面の作成単位は市区町村を基本としていますが、複数自治体の選択による広域的な設定も可能です。
(統計データは全国分を収集しています)

(表示範囲選択例)

- ・〇〇市
- ・△△都市圏
- ・××県
- ・関東甲信地方 など

Step2 「高さ」の表示データを選択



メッシュ単位で集計されたデータであれば、地域メッシュ統計として整備されたデータでなくても表示できます。データがポイントや面などメッシュでない場合でも、位置情報があればメッシュデータ化が可能です。

(高さデータ選択例)

- ・夜間人口(国勢調査)
- ・事業所従業者数(事業所・企業統計調査)
- ・小売業年間販売額(商業統計) など

Step3 「色」の表示データを選択

メッシュ内の値を率で色分け、特定の条件でメッシュの位置付けを色分け、高さ方向の値の階級区分で色分けなどが可能です。

(色データ選択例)

- ・高齢化率、公共交通等利用率
- ・公共交通利用圏別、区域区分
- ・メッシュ内密度の階級区分 など

【表示範囲、高さ、色データ選択の例】

Step1 表示範囲	〇〇市	△△市	△△都市圏	××県
Step2 高さデータ	夜間人口	販売額	従業者数	夜間人口
Step3 色データ	高齢化率	公共交通利用圏	区域区分	夜間人口密度階級区分

※高さ、色のデータは、様々な組み合わせが可能です。

※高さ、色のデータで異なるデータを組み合わせて表示することを「クロス表示」といいます。

2-2 可視化できること

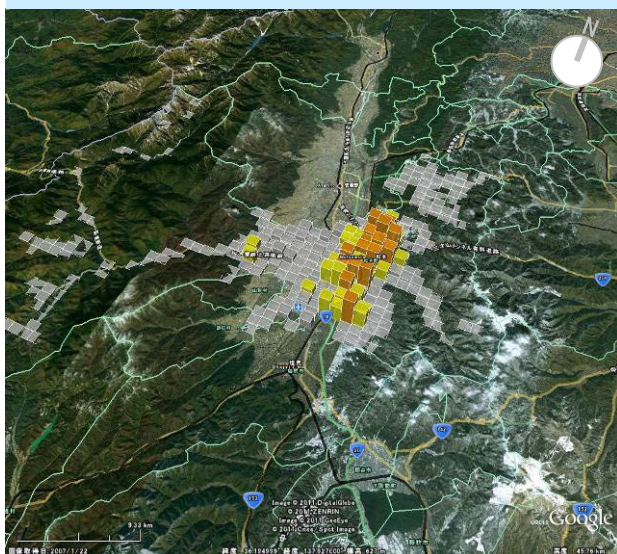
2-2-1 Step1 表示対象範囲を選択

→行政区単位でさまざまな範囲の設定が可能です

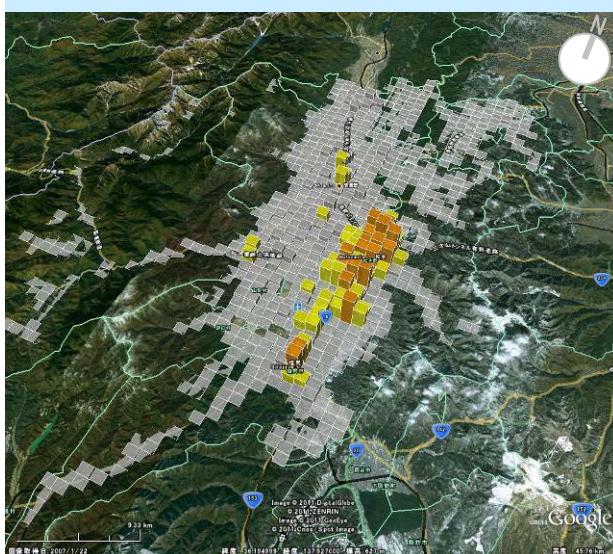
統計データは全国で整備されており、市区町村だけでなく都市圏や都県、関東甲信地方などの単位での設定も可能です。

高さ : H17 夜間人口
色 : H17 夜間人口密度

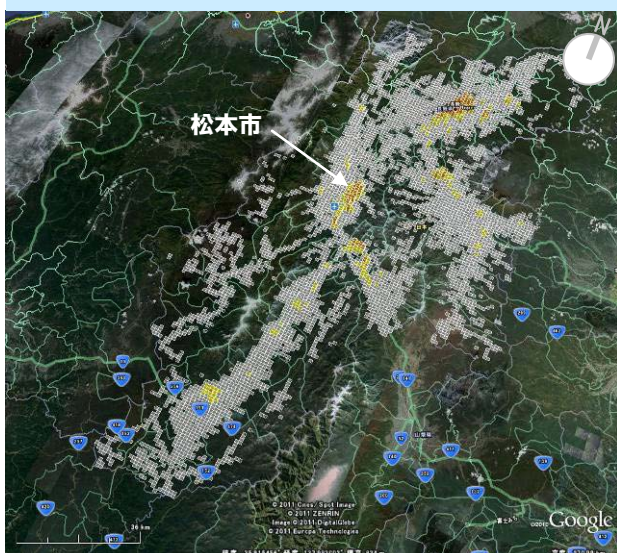
松本市(自市内の状況を見る場合)



松本都市圏(都市交通計画の策定時などで、周辺都市もあわせてみる場合)



長野県(県の中の自市の状況を見る場合)



関東甲信地方(地方の中の自市の状況を見る場合)



※人口のあるメッシュのみを表示対象としています。

凡 例 (上記4図)

メッシュサイズ	1km×1km
高 さ	夜間人口
色	夜間人口密度
	 10,000人/k㎡~ 4,000~10,000人/k㎡ 1,000~4,000人/k㎡ 0~1,000人/k㎡

出 典 高さ: H17 国勢調査(総務省)
色 : H17 国勢調査(総務省)

下絵の凡例
— 鉄道
— 道路
— 高速道路

2-2-2 Step2「高さ」の表示データを選択 ～ Step3「色」の表示データを選択

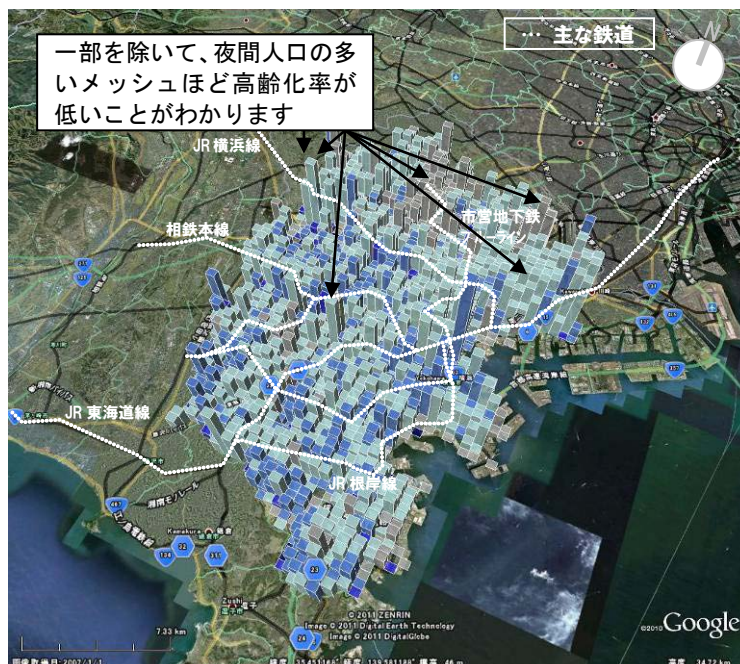
→メッシュ単位で集計された既存統計データを使うことで、様々な組合せて表示することが可能です

様々なデータを使ってクロス表示することにより、今まで単独で見ていた統計データとの関連性などを把握することが可能です。また、高さと色を同じデータにして、高いメッシュなどをより強調させたり、広域の図面を見やすくすることも可能です。

(1) 人口集積(国勢調査)を活用したもの

高さ : H17 夜間人口
色 : H17 高齢化率

凡 例	
メッシュサイズ	500m×500m
高 さ	夜間人口
色	高齢化率
	40%～ 30～40% 20～30% 10～20% 0～10%
出 典	高さ: H17 国勢調査(総務省) 色 : H17 国勢調査(総務省)
下絵の凡例	— 鉄道 — 道路 — 高速道路

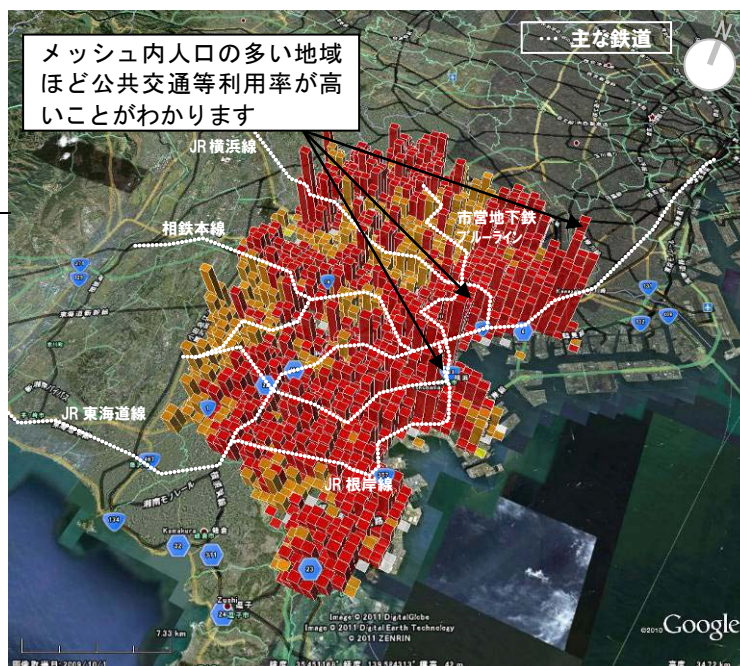


高さ : H12 夜間人口
色 : H12 通勤通学時公共交通等利用率

※通勤通学時公共交通等利用率＝

$$\frac{\text{鉄道利用} + \text{バス利用} + \text{自転車利用} + \text{徒歩}}{\text{通勤通学総数}}$$

凡 例	
メッシュサイズ	500m×500m
高 さ	夜間人口
色	通勤通学時公共交通等利用率
	75～100% 50～75% 25～50% 0～25%
出 典	高さ: H12 国勢調査(総務省) 色 : H12 国勢調査(総務省)
下絵の凡例	— 鉄道 — 道路 — 高速道路



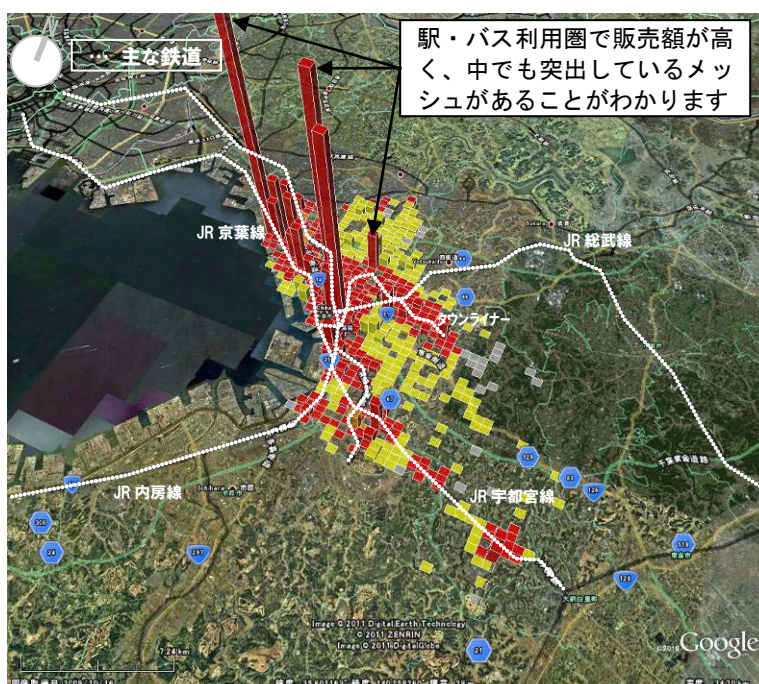
※国勢調査による通勤通学手段調査は10年ごとに実施のため、H12年データが最新のものとなります。
(H23.3現在)

(2) 商業・工業の集積(商業統計、工業統計)を活用したもの

高さ : H19 小売業年間販売額
色 : 公共交通利用圏

凡 例

メッシュサイズ	500m×500m
高 さ	小売業年間販売額
色	公共交通利用圏
	■ 駅・バス利用圏
	■ 駅利用圏
	■ バス利用圏
	■ 駅・バス利用圏外
出 典	高さ:H19 商業統計(経済産業省) 色 : プロトラス全施設データ(アルプス社)
下絵の凡例	— 鉄道 — 道路 — 高速道路



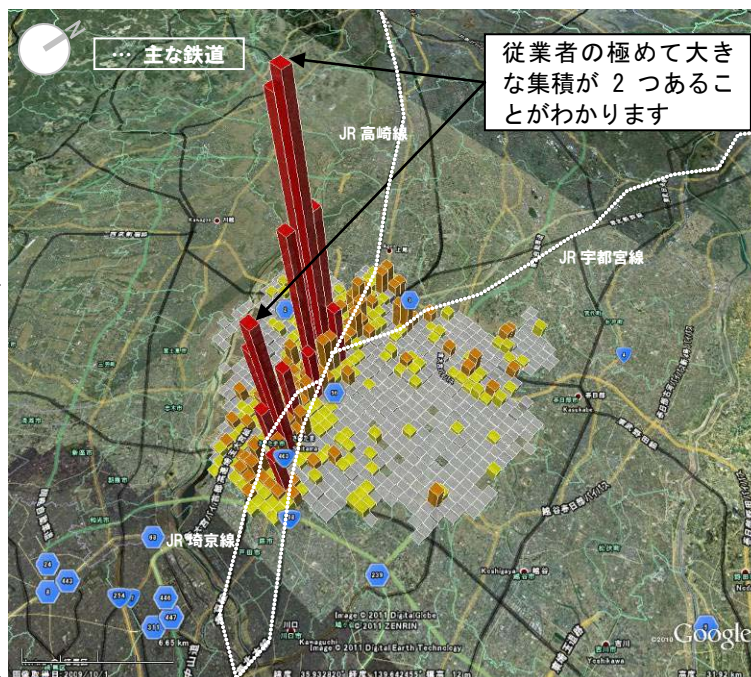
※駅利用圏 : 駅から半径 1km の範囲に位置するメッシュです。
バス利用圏 : バス停から半径 300m 範囲に位置するメッシュです。

(3) 事業所・企業統計調査を活用したもの

高さ : H18 全産業従業者数
色 : H18 全産業従業者密度

凡 例

メッシュサイズ	1km×1km
高 さ	全産業従業者数
色	全産業従業者数密度
	■ 10,000 人/k m ² ~
	■ 4,000~10,000 人/k m ²
	■ 1,000~4,000 人/k m ²
	■ 0~1,000 人/k m ²
出 典	高さ:H18 事業所・企業統計(総務省) 色 : H18 事業所・企業統計(総務省)
下絵の凡例	— 鉄道 — 道路 — 高速道路



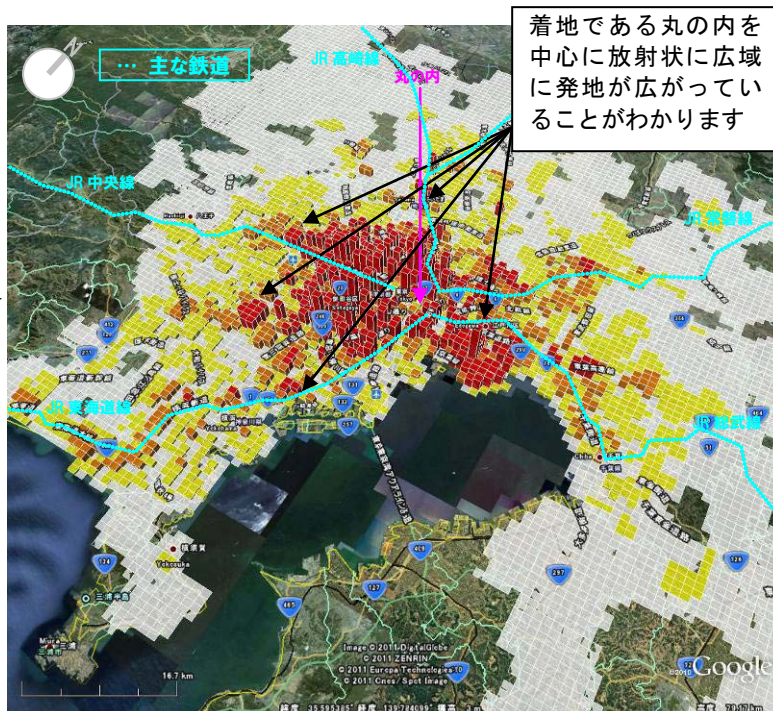
(4) 人の動き(PT調査)を活用したもの

高さ : 丸の内着通勤トリップ数
色 : 丸の内着通勤トリップ数密度

※丸の内着は、丸の内1～3丁目、大手町1～2丁目、皇居外苑、千代田、北の丸公園着のトリップ

凡 例

メッシュサイズ	1km×1km
高さ	丸の内着通勤トリップ数
色	丸の内着通勤トリップ数密度
	■ 10,000人/k㎡～ ■ 5,000～10,000人/k㎡ ■ 1,000～5,000人/k㎡ ■ 0～1,000人/k㎡
出 典	高さ: 第5回東京都市圏パーストリップ調査 (東京都市圏交通計画協議会) 色: 第5回東京都市圏パーストリップ調査 (東京都市圏交通計画協議会)
下絵の凡例	— 鉄道 — 道路 — 高速道路



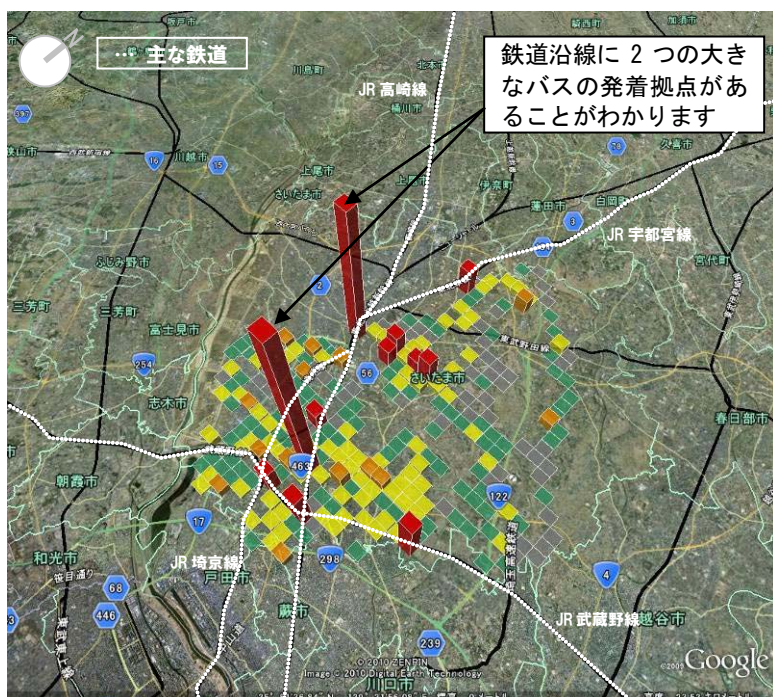
※通勤トリップ数は、PT調査のゾーンを面積按分でメッシュに変換して図化したものです。

(5) 公共交通のデータをメッシュ化して活用したもの

高さ : バス乗降客数
色 : バス乗降客数密度

凡 例

メッシュサイズ	500m×500m
高さ	バス乗降客数 (PASMO)
色	バス乗降客数 (PASMO) 密度
	■ 625,000人/k㎡～ ■ 312,500～625,000人/k㎡ ■ 62,500～312,500人/k㎡ ■ 6,250～62,500人/k㎡ ■ 0～6,250人/k㎡
出 典	高さ: H21PASMOデータ (国土交通省) 色: H21PASMOデータ (国土交通省)
下絵の凡例	— 鉄道 — 道路 — 高速道路



※バス乗降客数は、バス停のポイントデータをメッシュで集計して図化したものです。

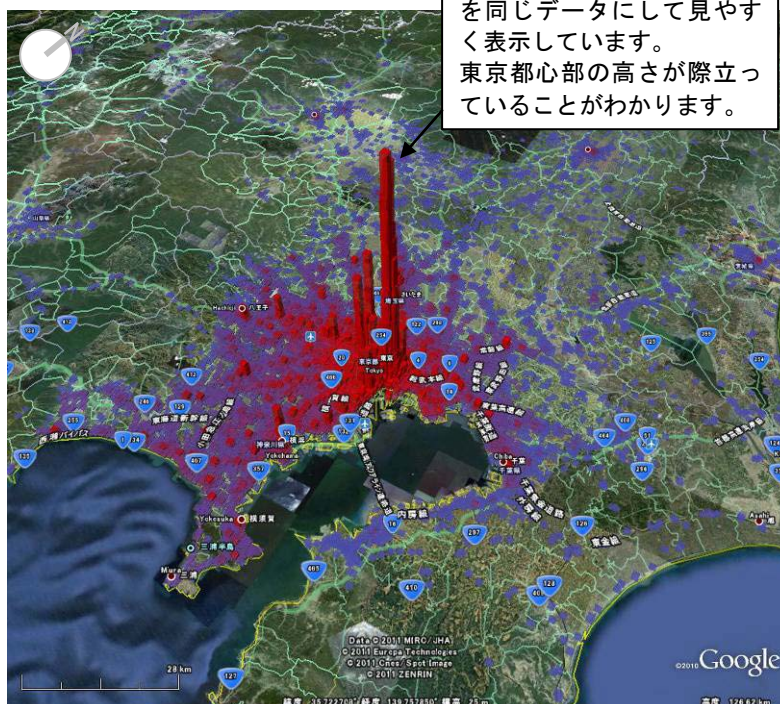
(6) その他のデータを活用したもの

地価公示データの活用

高さ : H19 地価
色 : H19 地価階級区分

凡 例

メッシュサイズ	(ポイントデータ)
高 さ	H19 地価
色	H19 地価
	100 万円/㎡～ 50～100 万円/㎡ 40～50 万円/㎡ 30～40 万円/㎡ 20～30 万円/㎡ 10～20 万円/㎡ 0～10 万円/㎡
出 典	高さ: 国土数値情報 地価公示データ (国土交通省) 色: 国土数値情報 地価公示データ (国土交通省)
下絵の凡例	— 鉄道 — 道路 — 高速道路



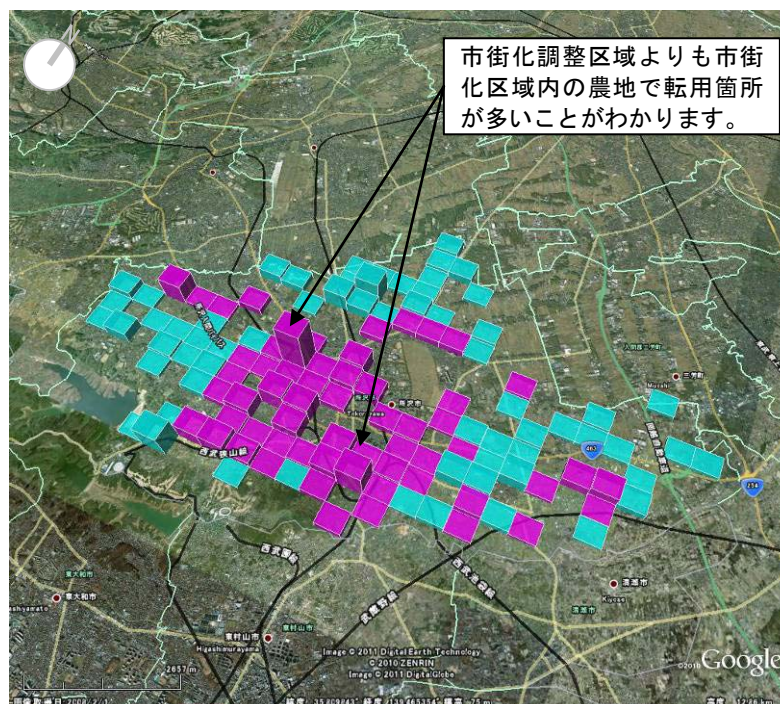
※H19 地価は、地価公示のポイントデータに高さ、色を与えて図化したものです。

都市計画基礎調査データの活用

高さ : 農地転用箇所数
色 : 区域区分

凡 例

メッシュサイズ	500m×500m
高 さ	農地転用箇所数
色	区域区分
	市街化区域 市街化調整区域
出 典	高さ: 都市計画基礎調査 (所沢市) 色: 国土数値情報 都市地域データ (国土交通省)
下絵の凡例	— 鉄道 — 道路 — 高速道路



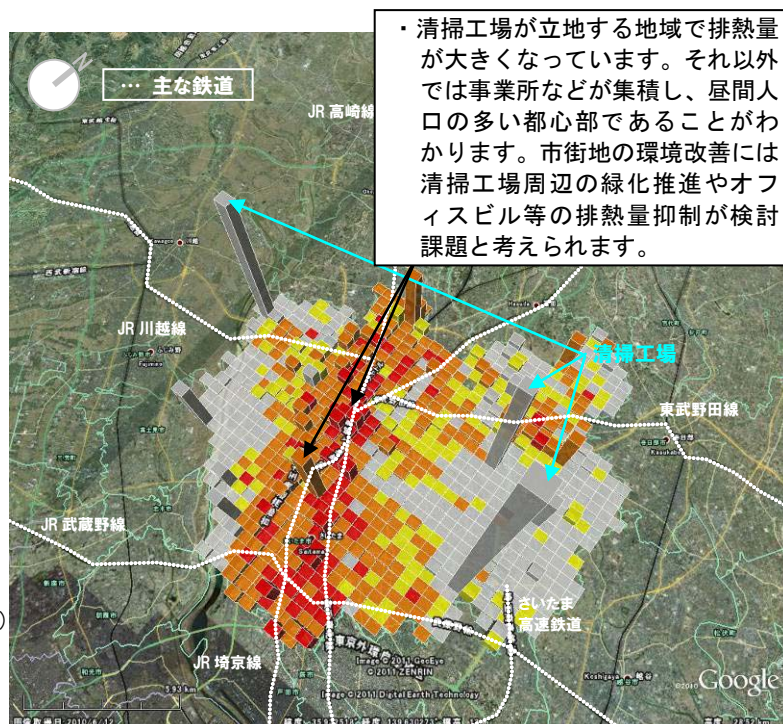
※農地転用箇所数は、農地転用箇所のポイントデータをメッシュで集計して図化したものです。

ヒートアイランド調査データの活用

高さ : 日平均人工排熱量
色 : H12 昼間人口

凡 例

メッシュサイズ	500m×500m
高 さ	日平均人工排熱量
色	昼間人口
	5,000 人/k㎡～ 1,000～5,000 人/k㎡ 500～1,000 人/k㎡ 0～500 人/k㎡
出 典	高さ: ヒートアイランド現象実態調査(埼玉県) 色: H12 リンク統計(総務省)
下絵の凡例	— 鉄道 — 道路 — 高速道路



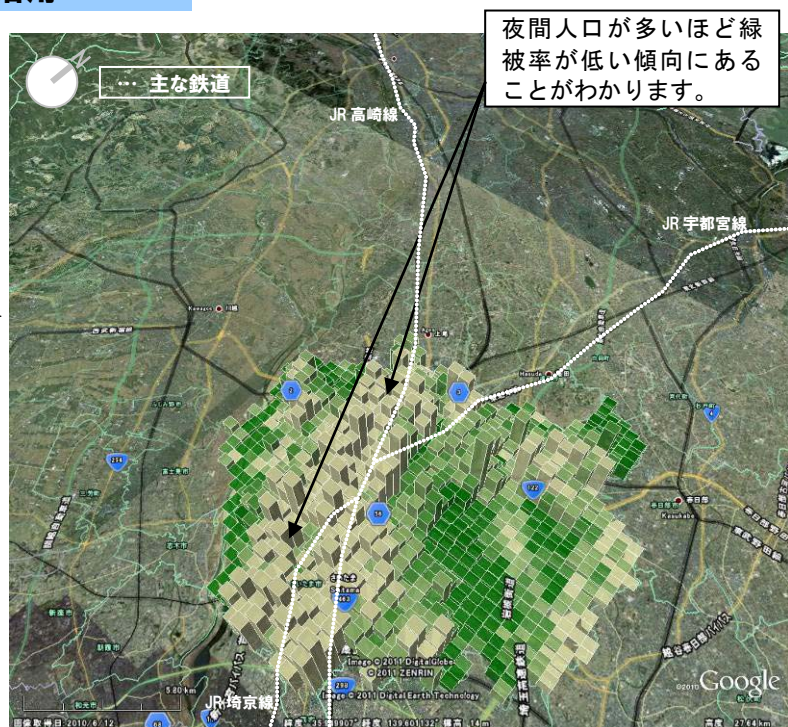
※人工排熱量は、各メッシュ内の建物、事業所、自動車から排出される熱量の推計値を合計したものです。

緑被率調査データの活用

高さ : H12 夜間人口
色 : 緑被率

凡 例

メッシュサイズ	500m×500m
高 さ	夜間人口
色	緑被率
	60～100% 40～60% 20～40% 0～20%
出 典	高さ: H12 国勢調査(総務省) 色: 緑被分布図(国土交通省)
下絵の凡例	— 鉄道 — 道路 — 高速道路



※緑被率は、10mメッシュで作成された緑被地データを500mメッシュ内の割合として算出したものです。

2-3 都市の集積状況を比較する

2-3-1 時間の経過に伴う比較

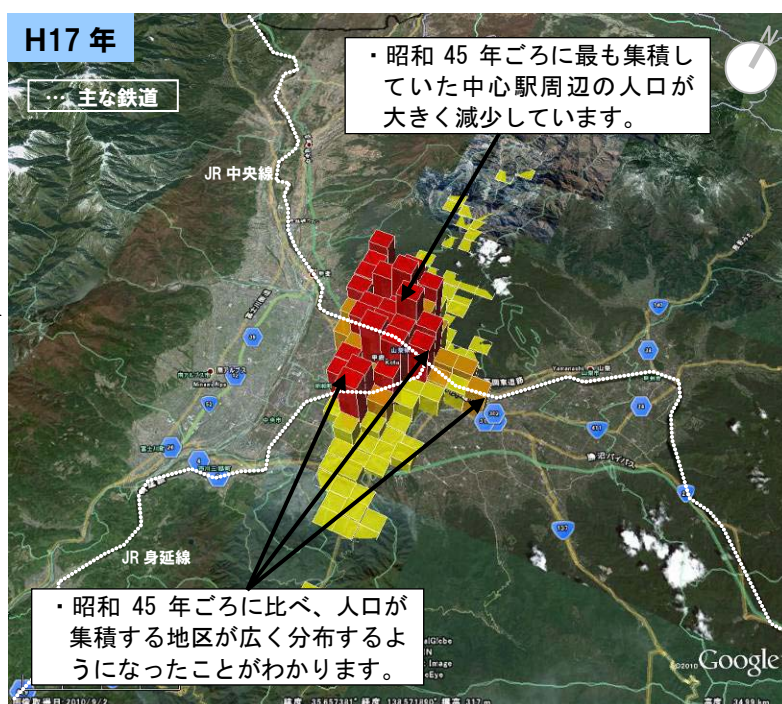
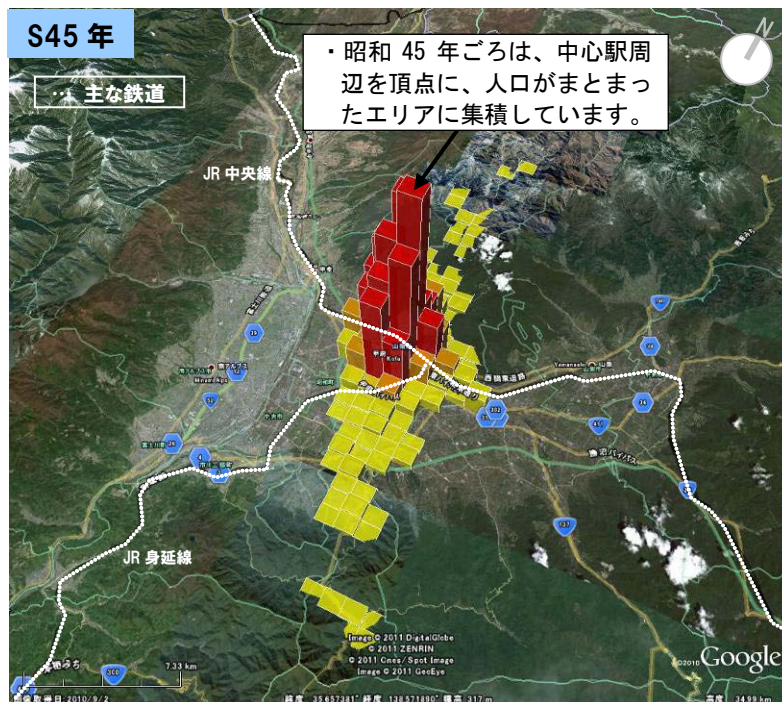
各種の統計調査は概ね5年毎に行われているため、各調査年次のデータを経年的な変化として比較することが可能です。

※調査年によって項目が異なることがあります。

(1) 2つの統計調査の年次別比較により時間的な変化を見る

都市構造の形成経緯を見る

高さ : 各年夜間人口
色 : 各年夜間人口密度



凡 例

メッシュサイズ	1km×1km
高さ	夜間人口
色	夜間人口密度
	■ 4,000 人/k m ² ~
	■ 2,000~4,000 人/k m ²
	■ 0~2,000 人/k m ²
出 典	高さ:S45, H17 国勢調査(総務省)
	色 : S45, H17 国勢調査(総務省)
下絵の凡例	— 鉄道
	— 道路
	— 高速道路

(2) 統計調査の年次別増減値(差分)を比較して、伸び率を見る

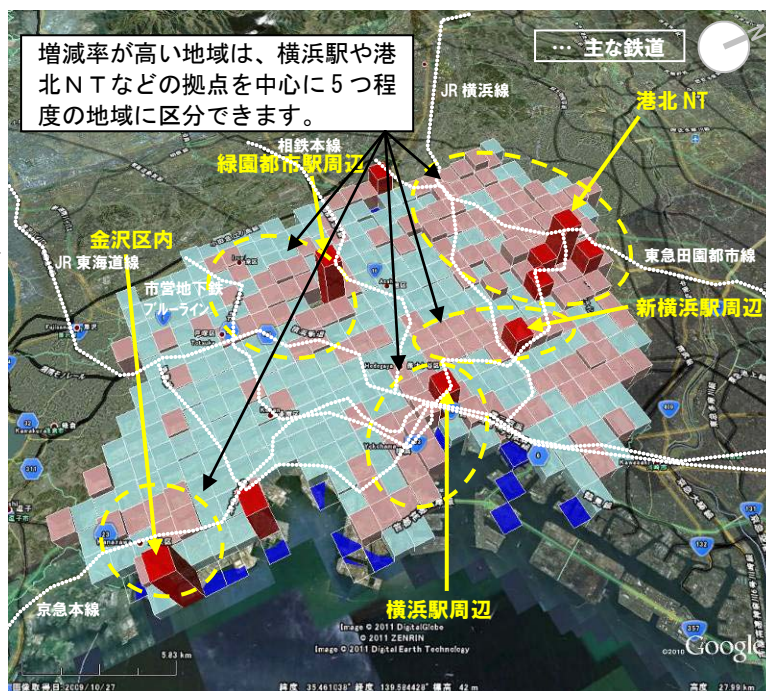
人口の増減が著しい箇所の把握

都市全体の人口増減率のメッシュ平均値と比較することで、増減の著しいメッシュをわかりやすく表現できます。

高さ :H17/H7 人口増減率の
横浜市平均値との比(値)

色 :H17/H7 人口増減率の
横浜市平均値との比(階級)

横浜市人口増減率メッシュ平均値=1.08



凡 例

メッシュサイズ 1km×1km

高 さ H17/H7 人口増減率の
横近市平均値との比（値）

色 H17/H7 人口増減率の
横浜市平均値との比(階級)

- 2.0 倍～
- 1.0～2.0 倍
- 0.5～1.0 倍
- 0～0.5 倍

出典 高さ：H7.17 国勢調査（総務省）
色：H7.17 国勢調査（総務省）

下絵の凡例

- 鉄道
- 道路
- 高速道路

高さ :H17 夜間人口(実数)

色 : H17/H7 人口増減率の
横浜市平均値との比(階級)

凡 例

メッシュサイズ 1km×1km

高 さ	H17 夜間人口（実数）
100m以上	1,000
90m以上	1,000
80m以上	1,000
70m以上	1,000
60m以上	1,000
50m以上	1,000
40m以上	1,000
30m以上	1,000
20m以上	1,000
10m以上	1,000
10m未満	1,000

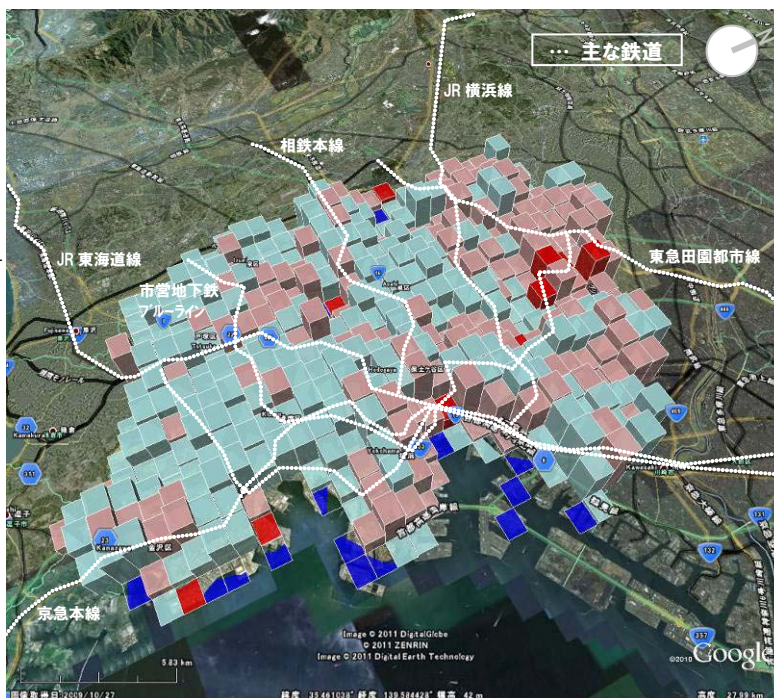
色 H17/H7 人口増減率の
横浜市平均値との比（階級）

■	2.0 倍～
■	1.0～2.0 倍
■	0.5～1.0 倍
■	0～0.5 倍

出典 高さ：H17 国勢調査（総務省）
色：H17.17 国勢調査（総務省）

下絵の凡例

- 鉄道
- 道路
- 高速道路



(3) 将来人口の推計値と比較する

コーホート変化率法(簡便法)を用いた将来人口推計(趨勢)との比較

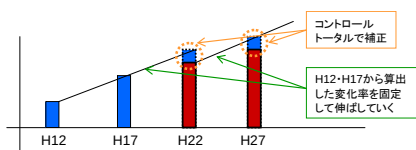
国勢調査では地域メッシュ毎に男女別5歳階級人口が集計されており、コーホート変化率法(簡便法)を用いて将来の人口を推計し、現在と比較することも可能です。人口集積地の移動や集落地等の高齢化率の進展をみることができます。

高さ : 各年夜間人口
色 : 各年高齢化率

※コーホート変化率法

自然動態と社会動態を分離せず1つの要因に統合して推計するもので、平成12年と平成17年の国勢調査人口を基礎としてコーホート(同時出生集団)の変化率を計算し、各コーホートの変化率は将来も変化しないと仮定して基準年(平成17年)から延ばしていく手法。

今回は、この手法で算出した数値を国立社会保障・人口問題研究所による推計値(市区町村値)で補正している。

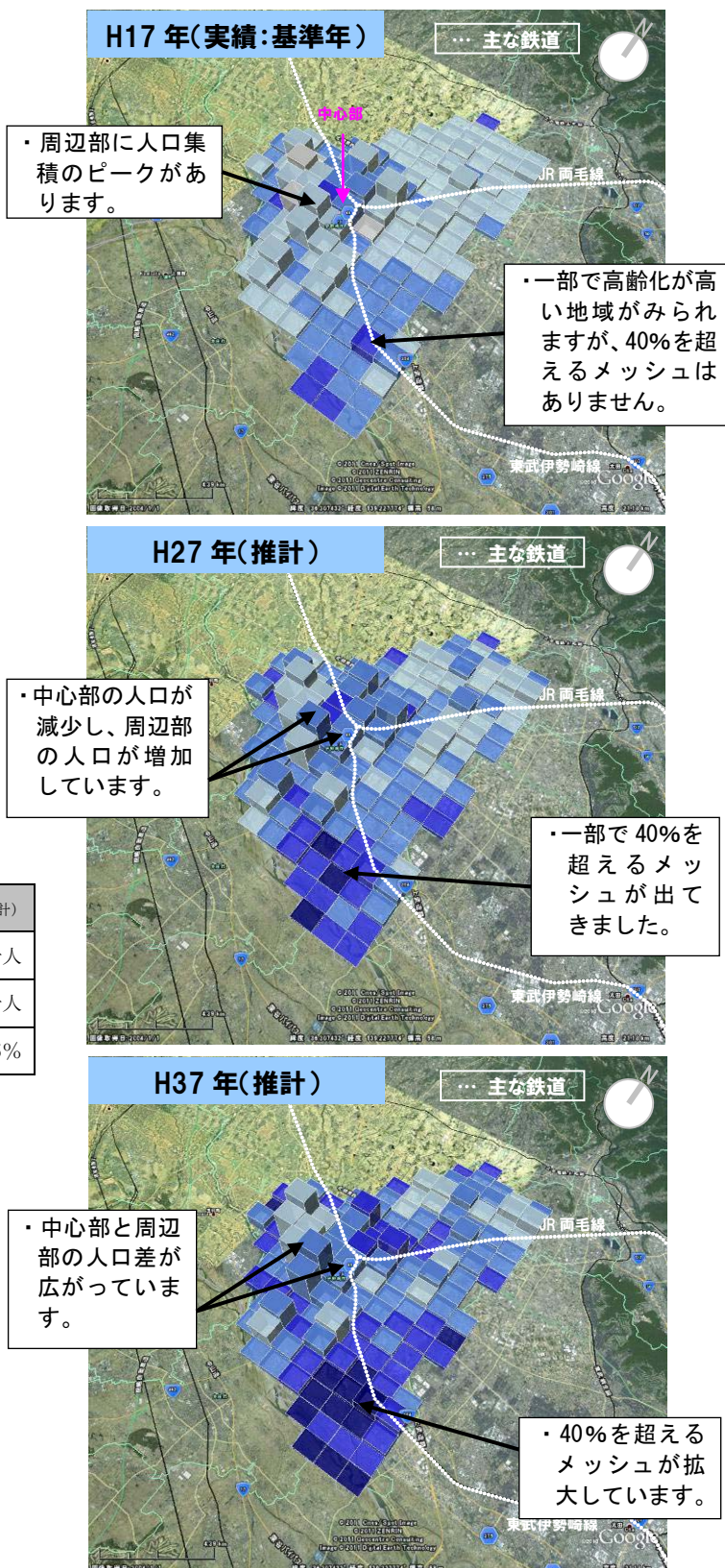


【都市全体の値】

	H17(実績)	H27(推計)	H37(推計)
夜間人口	205 千人	209 千人	208 千人
65 歳以上人口	37 千人	48 千人	53 千人
高齢化率	18%	23%	25%

凡 例

メッシュサイズ	1km×1km
高 さ	各年夜間人口
色	各年高齢化率
	40%～ 30～40% 20～30% 10～20% 0～10%
出 典	高さ: H17 国勢調査(総務省) 色 : H17 国勢調査(総務省)
下絵の凡例	鉄道 道路 高速道路



2-3-2 都市単位での比較

(1) 同一規模(人口規模、政令市・中核市・特例市別など)での比較

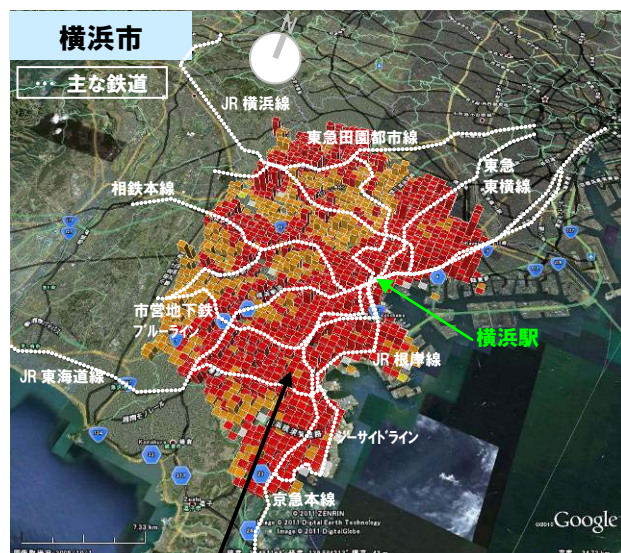
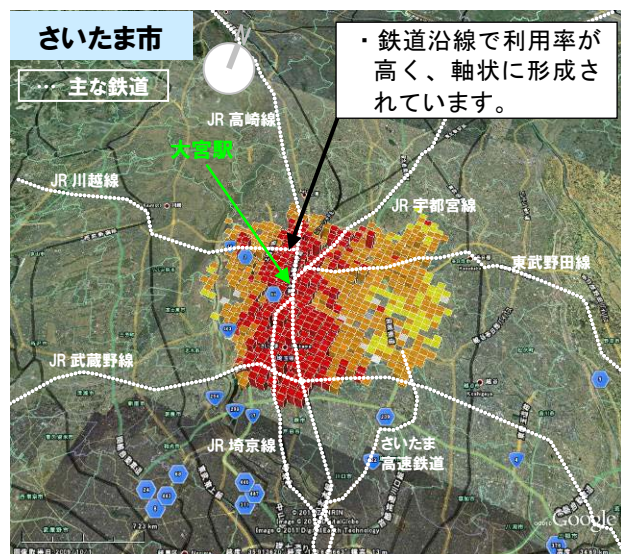
同じような立地条件にある同規模都市でも、都市によって人口の集積状況などは異なり、他都市と比較することで、改めて自市の都市構造上の特性を把握することができます。

政令市で比較した事例

高さ : H12 夜間人口

色 : H12 通勤通学時公共交通等利用率

※通勤通学時公共交通等利用率＝
 $\frac{\text{鉄道利用} + \text{バス利用} + \text{自転車利用} + \text{徒歩}}{\text{通勤通学総数}}$



凡 例

メッシュサイズ	500m × 500m
高 さ	夜間人口
色	通勤通学時公共交通等利用率
	75～100%
	50～75%
	25～50%
	0～25%

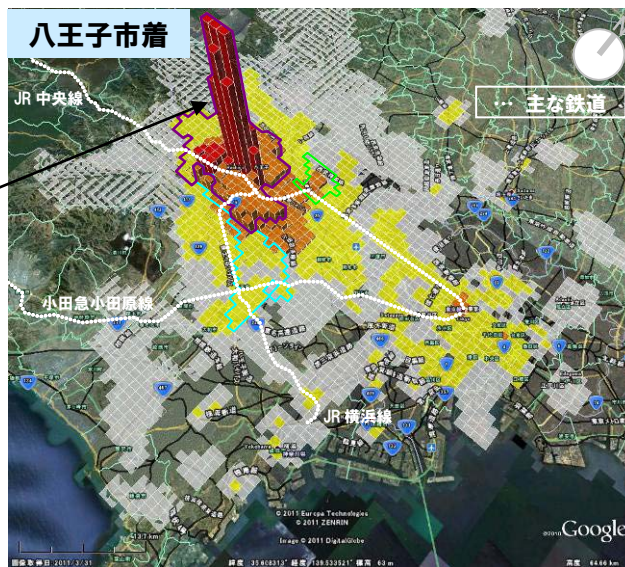
出 典	高さ : H12 国勢調査(総務省) 色 : H12 国勢調査(総務省)
下絵の凡例	— 鉄道 — 道路 — 高速道路

(2) 商業圏域(着トリップ設定)の比較

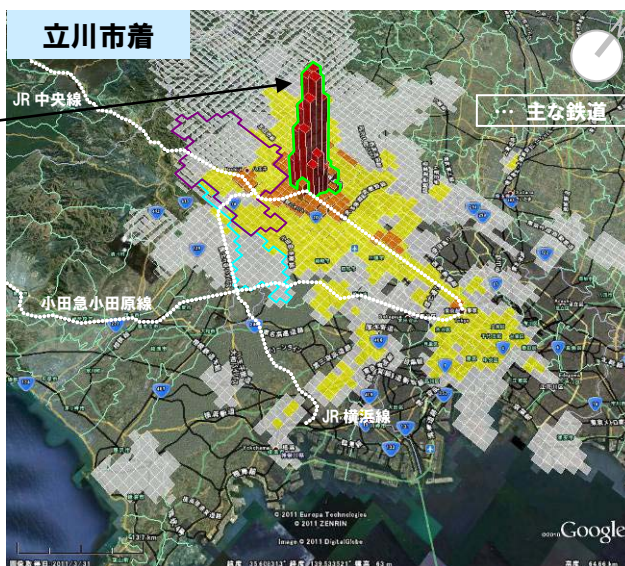
都市への私事トリップの発地分布をみることにより、商業等の集客圏をみることができます。それを近接する都市で比較することで、それぞれの都市の圏域の広さや広がる方向を把握することができます。

私事トリップの発地分布による圏域の比較

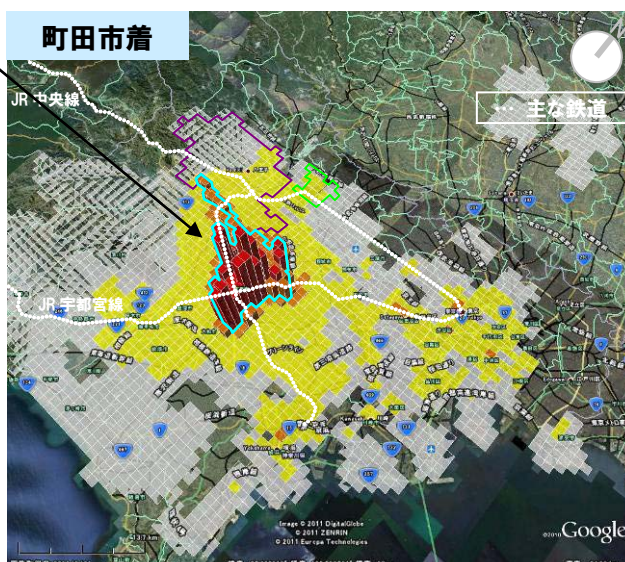
- ・八王子市域が極めて多いが、市の東側や東京からのトリップもみられ、商圈の大きさでは3都市の中で最も大きいことがわかります。



- ・立川市域が極めて多く、他の都市からの顧客の吸引は少ないことがわかります。



- ・町田市域が極めて多いが、南側の相模原市からの吸引も見られます。他の都市からの顧客の吸引はほとんどないことがわかります。



凡 例

メッシュサイズ	1km×1km
高 さ	私事トリップ数
色	私事トリップ数
	1,000 TE/日～
	100～1,000 TE/日
	10～100 TE/日
	0～10 TE/日
	八王子市
	立川市
	町田市
出 典	高さ・第5回東京都市圏パーソトリップ調査 (東京都市圏交通計画協議会)
	色・第5回東京都市圏パーソトリップ調査 (東京都市圏交通計画協議会)
下絵の凡例	— 鉄道
	— 道路
	— 高速道路

(3) 世界の都市(一部都市のみ)との比較

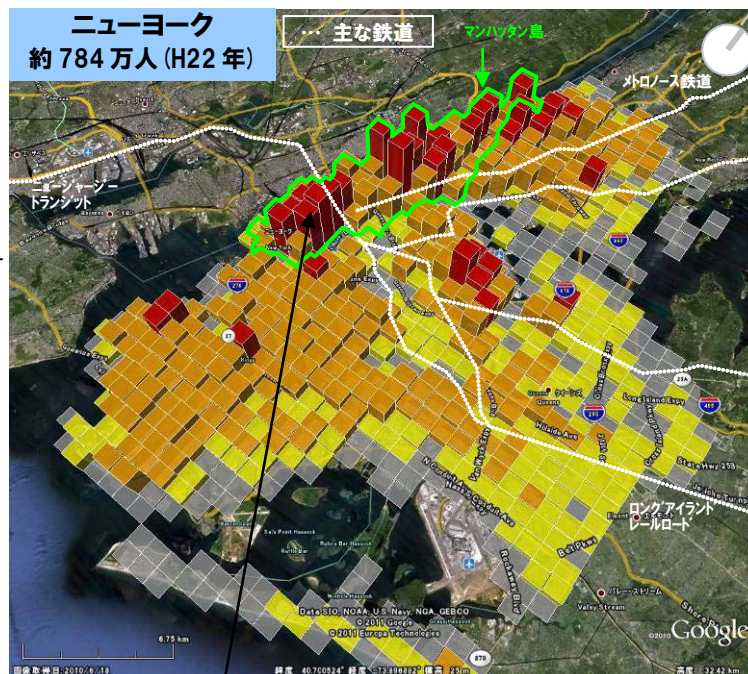
世界の同規模都市や先進的な施策を実施している都市と比較することで、自市の人口集積など都市構造上の特性や施策の導入可能性を把握することができます。

高さ : H22 夜間人口
色 : H22 夜間人口密度

凡 例

メッシュサイズ	1km×1km
高 さ	夜間人口
色	夜間人口密度
	30,000 人/メッシュ〜 10,000〜30,000 人/メッシュ 4,000〜10,000 人/メッシュ 0〜4,000 人/メッシュ
出 典	高さ: US Census 2010 (US Census Bureau) 色 : US Census 2010 (US Census Bureau)
下絵の凡例	鉄道 道路 高速道路

※ニューヨークはリッチモンドを除くブロンクス、キングズ、ニューヨーク、クイーンズの4つのカウンティ(郡)で設定しています。

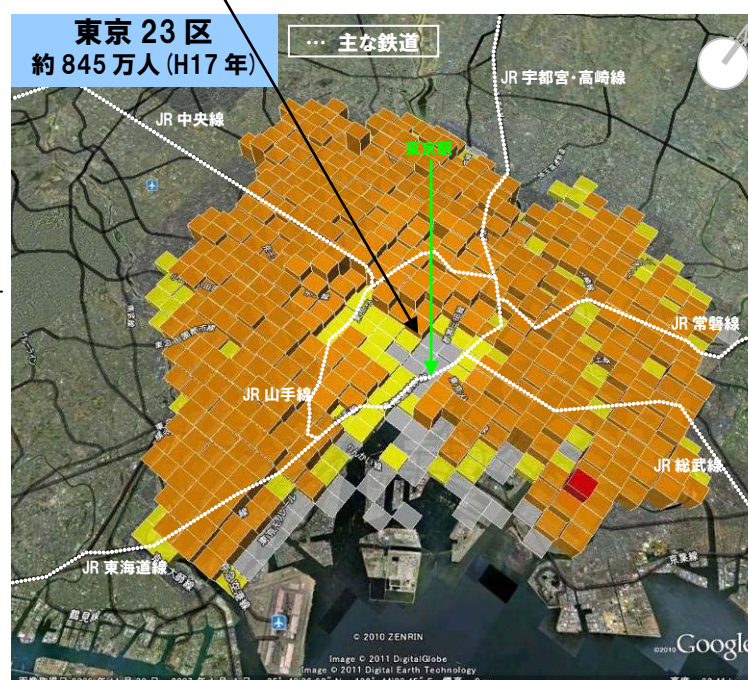


・ニューヨークは世界経済の中心であるマンハッタンを中心に夜間人口が極めて高く集積しており、都心の周辺部に人口が集積する東京とは逆の職住近接型の都市構造となっていることがわかります。

高さ : H17 夜間人口
色 : H17 夜間人口密度

凡 例

メッシュサイズ	1km×1km
高 さ	夜間人口
色	夜間人口密度
	30,000 人/メッシュ〜 10,000〜30,000 人/メッシュ 4,000〜10,000 人/メッシュ 0〜4,000 人/メッシュ
出 典	高さ: H17 国勢調査(総務省) 色 : H17 国勢調査(総務省)
下絵の凡例	鉄道 道路 高速道路

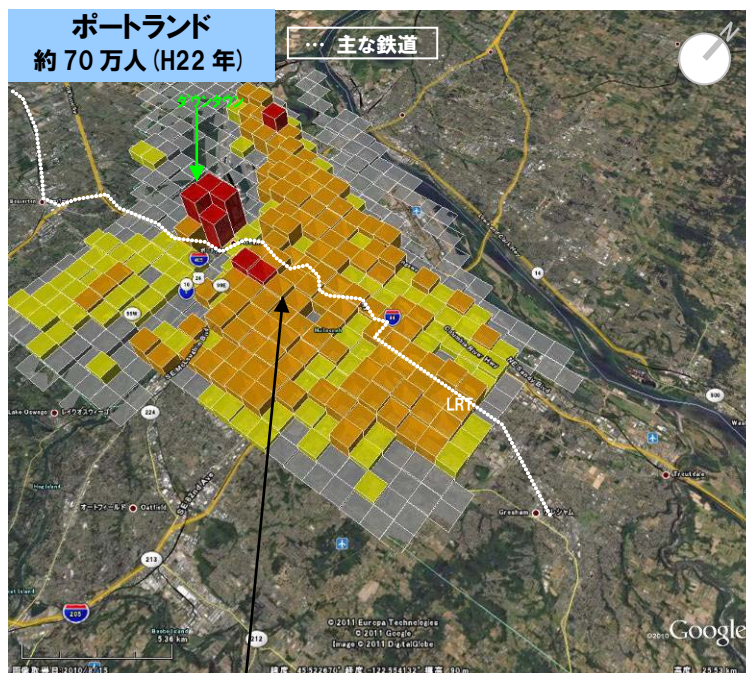


※上記の人口(万人)は表示メッシュの総数です。

高さ :H22 夜間人口
色 :H22 夜間人口密度

凡 例

メッシュサイズ	1km×1km
高 さ	夜間人口
色	夜間人口密度
	4,000 人/メッシュ～ 2,000～4,000 人/メッシュ 1,000～2,000 人/メッシュ 0～1,000 人/メッシュ
出 典	高さ:US Census 2010 (US Census Bureau) 色 :US Census 2010 (US Census Bureau)
下絵の凡例	鉄道 道路 高速道路



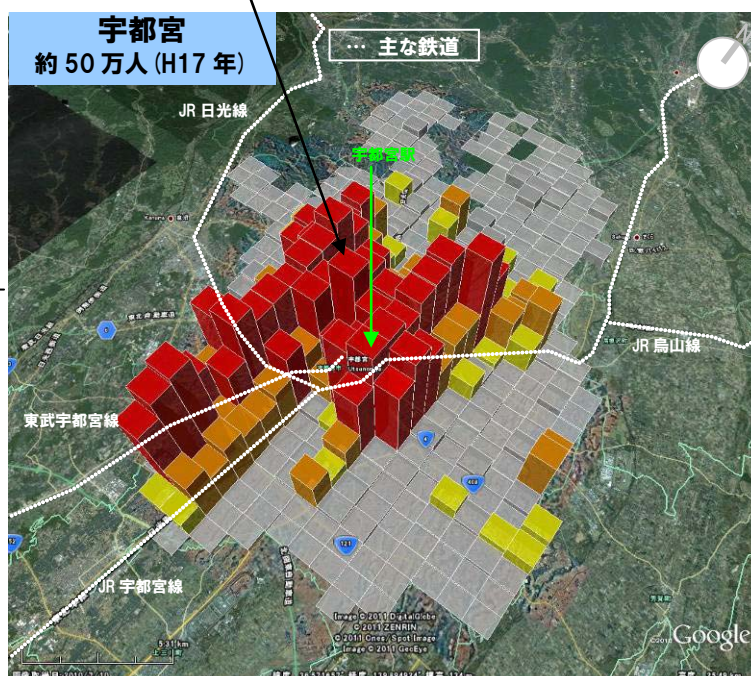
・TOD で有名なアメリカ オレゴン州ポートランド市ですが、LRT を中心に夜間人口の集積があるものの、同規模の宇都宮市と人口密度を比較すると、宇都宮市の方がコンパクトにまとまっていることがわかります。

※TOD: Transit Oriented Development):
公共交通を中心とした街づくり

高さ :H17 夜間人口
色 :H17 夜間人口密度

凡 例

メッシュサイズ	1km×1km
高 さ	夜間人口
色	夜間人口密度
	4,000 人/メッシュ～ 2,000～4,000 人/メッシュ 1,000～2,000 人/メッシュ 0～1,000 人/メッシュ
出 典	高さ:H17 国勢調査(総務省) 色 :H17 国勢調査(総務省)
下絵の凡例	鉄道 道路 高速道路



※上記の人口（万人）は表示メッシュの総数です。

3. 政策テーマ(課題)の現状分析等

3-1 都市計画

3-1-1 土地利用規制の現状分析

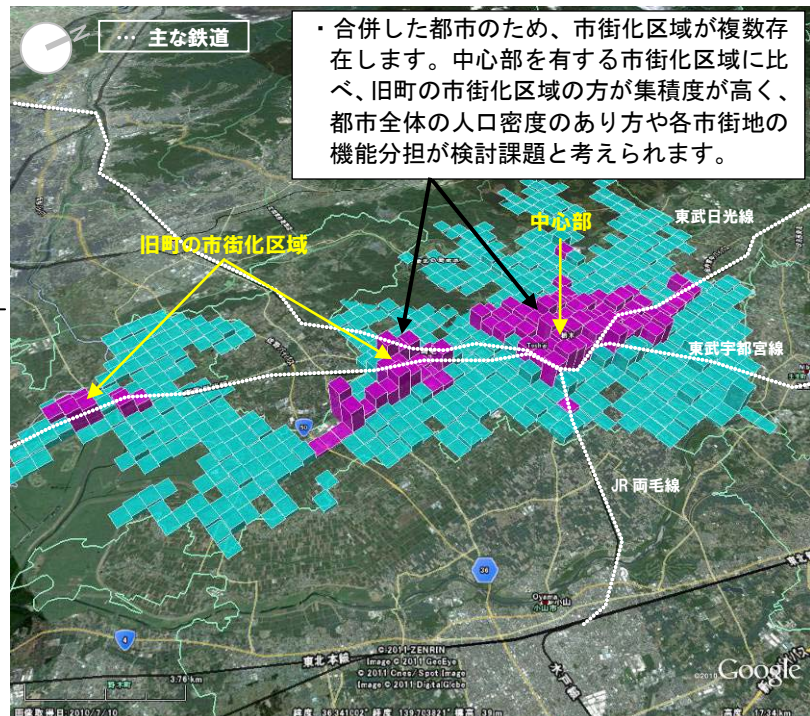
区域区分と昼間人口や夜間人口とクロスすることにより、土地利用規制と人口集積（市街化）の実態がみえてきます。土地利用規制や関連するまちづくりのあり方を見直す基礎資料として活用できます。

高さ : H17 夜間人口

色 : 区域区分

凡 例

メッシュサイズ	500m × 500m
高 さ	夜間人口
色	区域区分
	市街化区域 市街化調整区域 非線引き用途地域 非線引き白地地域 都市計画区域外
出 典	高さ : H17 国勢調査(総務省) 色 : 国土数値情報 都市地域データ(国土交通省)
下絵の凡例	鉄道 道路 高速道路

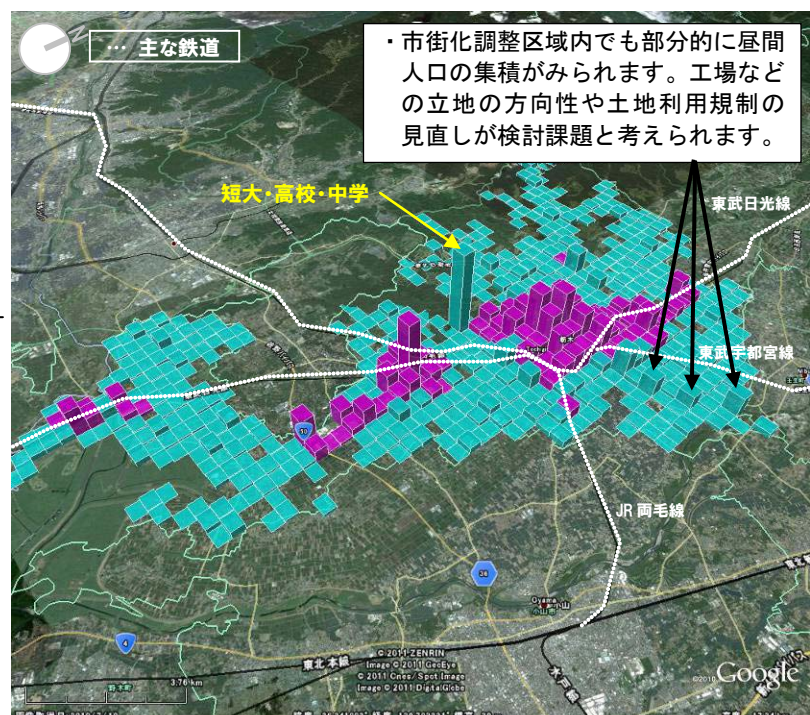


高さ : H12 昼間人口

色 : 区域区分

凡 例

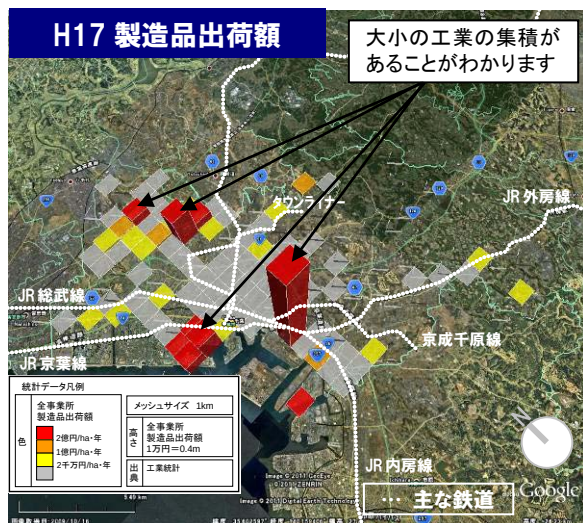
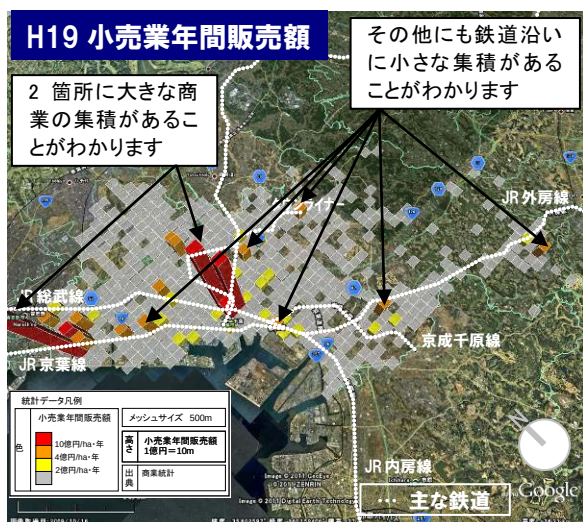
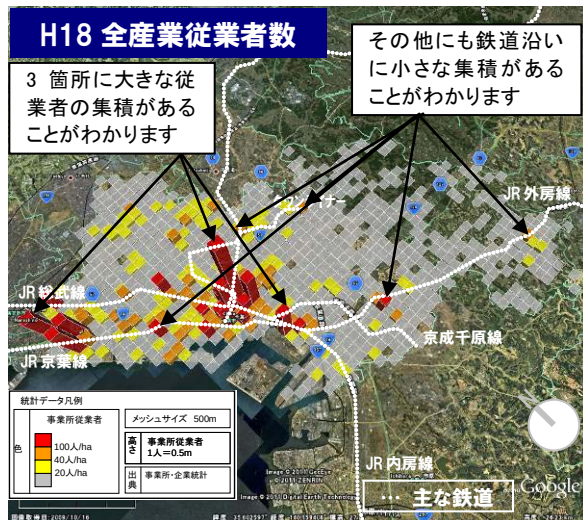
メッシュサイズ	500m × 500m
高 さ	昼間人口
色	区域区分
	市街化区域 市街化調整区域 非線引き用途地域 非線引き白地地域 都市計画区域外
出 典	高さ : H12 リンク統計(総務省) 色 : 国土数値情報 都市地域データ(国土交通省)
下絵の凡例	鉄道 道路 高速道路



3-1-2 マスタープラン策定のための現状分析

事業所従業員数や小売業販売額、製造品出荷額は、その地域の人や物の集積の大きさを表す数値です。それらが集積する位置を把握することにより、都市計画マスタープランで示される「将来都市構造」の拠点などの設定根拠として活用することができます。

※本項は、検討会が独自で作成した資料であり、当該計画と直接関係はありません。



【拠点の一般的な構成例】

都心：その都市の活動の中心となる拠点
副都心：都心の機能を補完し連携する拠点
生活拠点：日常生活の活動の中心となる拠点
産業拠点：都市の産業活動の中心となる拠点

大きな集積の地域を都心、副都心に、小さな集積の地域を生活拠点に位置付け

将来都市構造図



大小の工業の集積を産業拠点に位置付け

3-2 交通

3-2-1 公共交通を取り巻く実態の把握

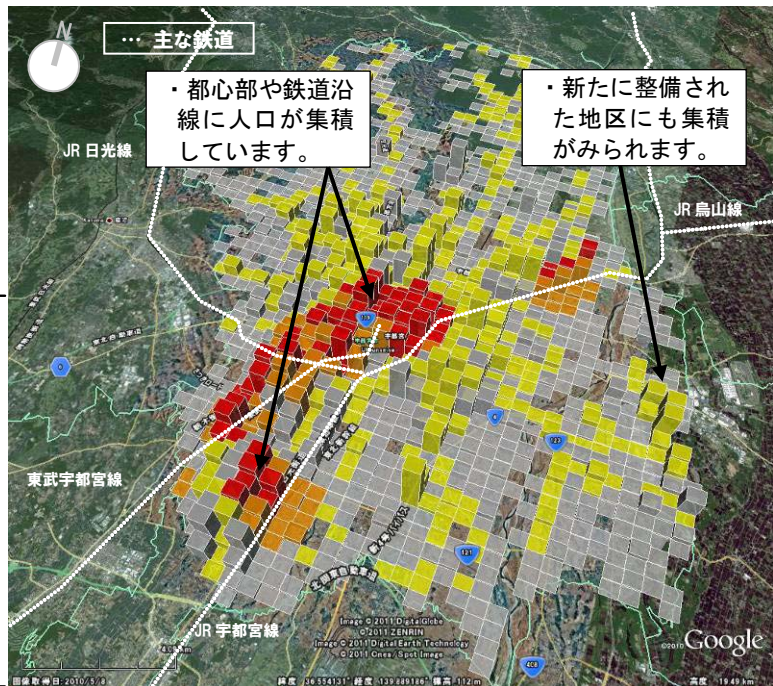
公共交通利用圏や利用率と人口などを可視化することにより、公共交通を取り巻く実態が把握でき、利用促進や新規路線検討などの基礎資料として活用することができます。

ここでは、人口と公共交通利用圏から公共交通のカバー状況をみた上で、バス本数によりサービス水準を把握します。さらに、道路別の走行速度により、バス運行を取り巻く状況を把握した上で、結果として公共交通の利用実態がどのようになっているかをみます。

高さ : 夜間人口
色 : 公共交通利用圏

凡 例

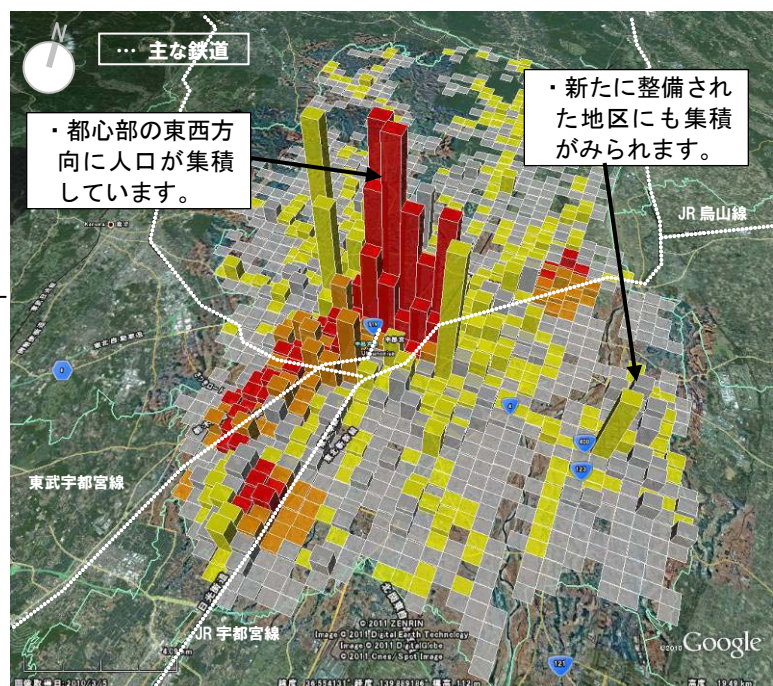
メッシュサイズ	500m × 500m
高 さ	夜間人口
色	公共交通利用圏
	■ 駅・バス利用圏
	■ 駅利用圏
	■ バス利用圏
	■ 駅・バス利用圏外
出 典	高さ : H12 国勢調査(総務省) 色 : フロアラス全施設データ(アルプス社) バス停データ(宇都宮市)
下絵の凡例	— 鉄道 — 道路 — 高速道路



高さ : 昼間人口
色 : 公共交通利用圏

凡 例

メッシュサイズ	500m × 500m
高 さ	昼間人口
色	公共交通利用圏
	■ 駅・バス利用圏
	■ 駅利用圏
	■ バス利用圏
	■ 駅・バス利用圏外
出 典	高さ : H12 リンク統計(総務省) 色 : フロアラス全施設データ(アルプス社) バス停データ(宇都宮市)
下絵の凡例	— 鉄道 — 道路 — 高速道路



※駅利用圏 : 駅から半径 1km の範囲に位置するメッシュです。

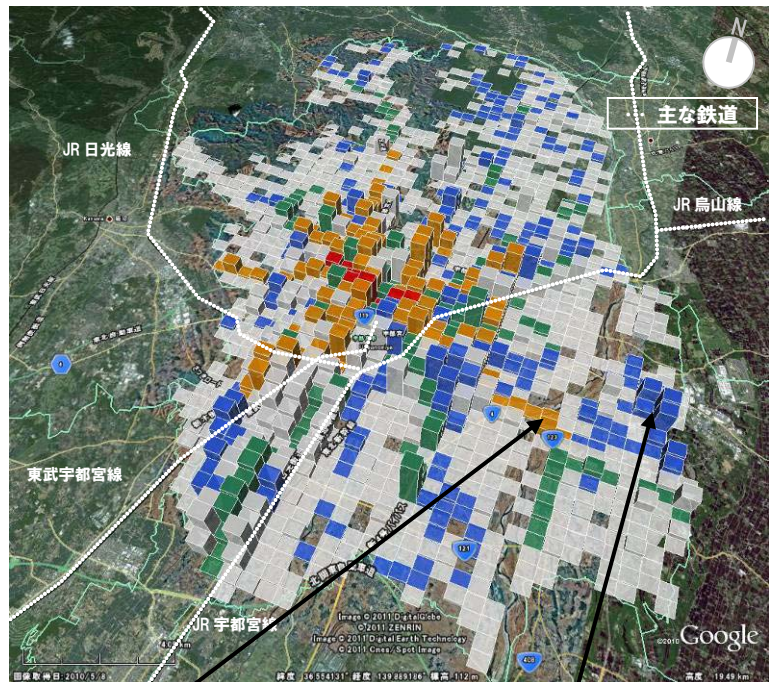
バス利用圏 : バス停から半径 300m 範囲に位置するメッシュです。

高さ : 夜間人口
色 : バス本数

凡 例

メッシュサイズ	500m × 500m
高 さ	夜間人口
色	バス運行本数
	■ 500 本/日～
	■ 100～500 本/日
	■ 50～100 本/日
	■ 1～50 本/日
	■ 0 本/日
出 典	高さ : H12 国勢調査(総務省) 色 : バス本数データ(宇都宮市)

下絵の凡例	— 鉄道
	— 道路
	— 高速道路



・バス本数の多い路線と人口集積が一致していない地区もみられます。

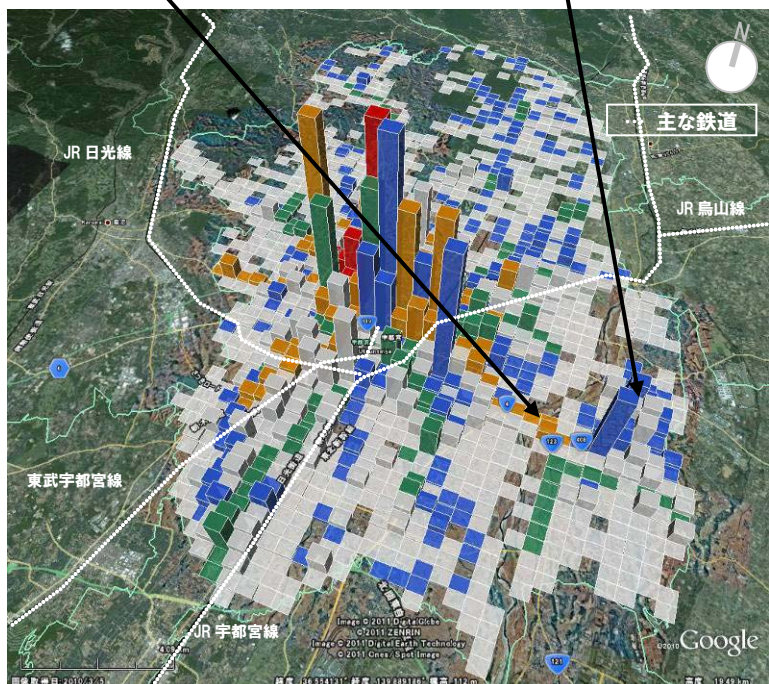
・郊外部では、人口が集積していても本数が少ない若しくはバス路線が無く、利便性が極めて低い状況です。

高さ : 昼間人口
色 : バス本数

凡 例

メッシュサイズ	500m × 500m
高 さ	昼間人口
色	バス運行本数
	■ 500 本/日～
	■ 100～500 本/日
	■ 50～100 本/日
	■ 1～50 本/日
	■ 0 本/日
出 典	高さ : H12 リンク統計(総務省) 色 : バス本数データ(宇都宮市)

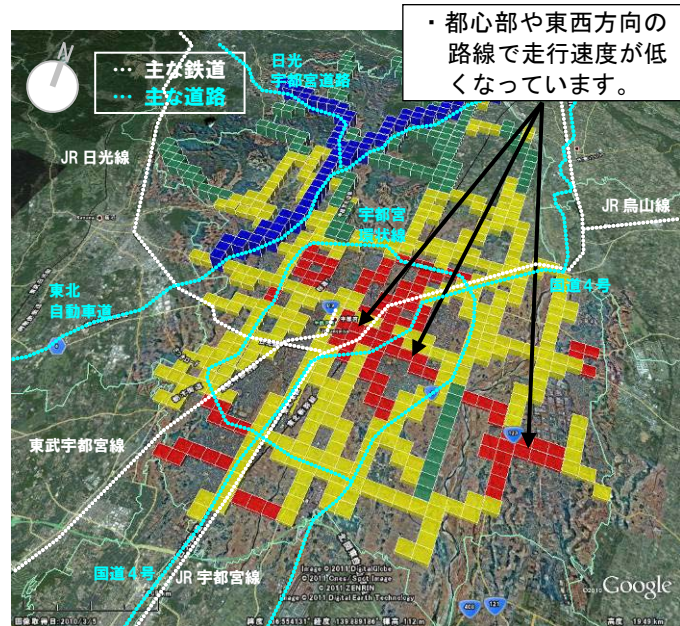
下絵の凡例	— 鉄道
	— 道路
	— 高速道路



高さ : ピーク時走行速度
色 : ピーク時走行速度

凡 例

メッシュサイズ	500m × 500m
高 さ	ピーク時走行速度
色	ピーク時走行速度
	60km/h～
	40～60km/h
	20～40km/h
	0～20km/h
出 典	高さ : H17 道路交通センサス(国土交通省) 色 : H17 道路交通センサス(国土交通省)
下絵の凡例	— 鉄道 — 道路 — 高速道路



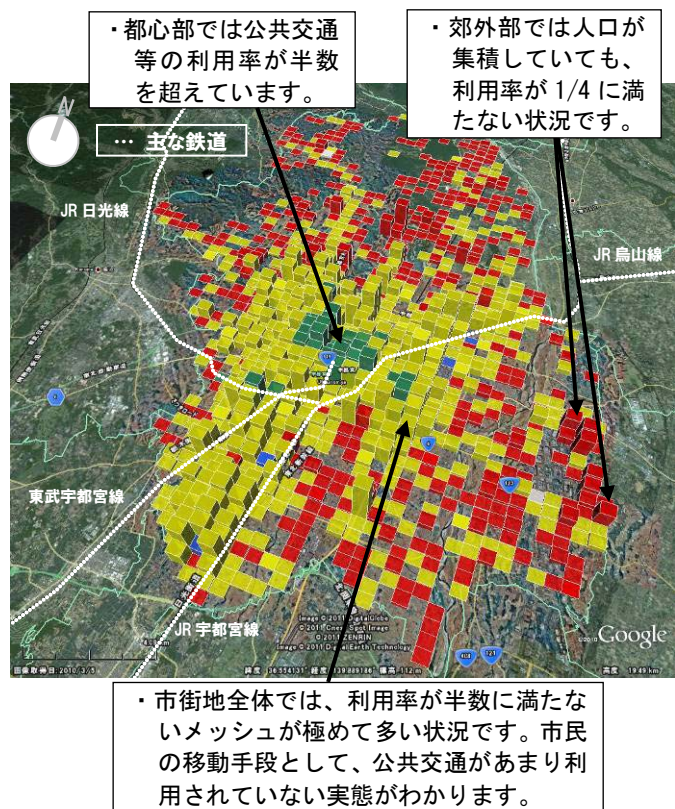
高さ : 夜間人口
色 : 通勤通学時公共交通等利用率

※通勤通学時公共交通等利用率＝

$$\frac{\text{鉄道利用} + \text{バス利用} + \text{自転車利用} + \text{徒歩}}{\text{通勤通学総数}}$$

凡 例

メッシュサイズ	500m × 500m
高 さ	夜間人口
色	通勤通学時公共交通等利用率
	75～100%
	50～75%
	25～50%
	0～25%
出 典	高さ : H12 国勢調査(総務省) 色 : H12 国勢調査(総務省)
下絵の凡例	— 鉄道 — 道路 — 高速道路

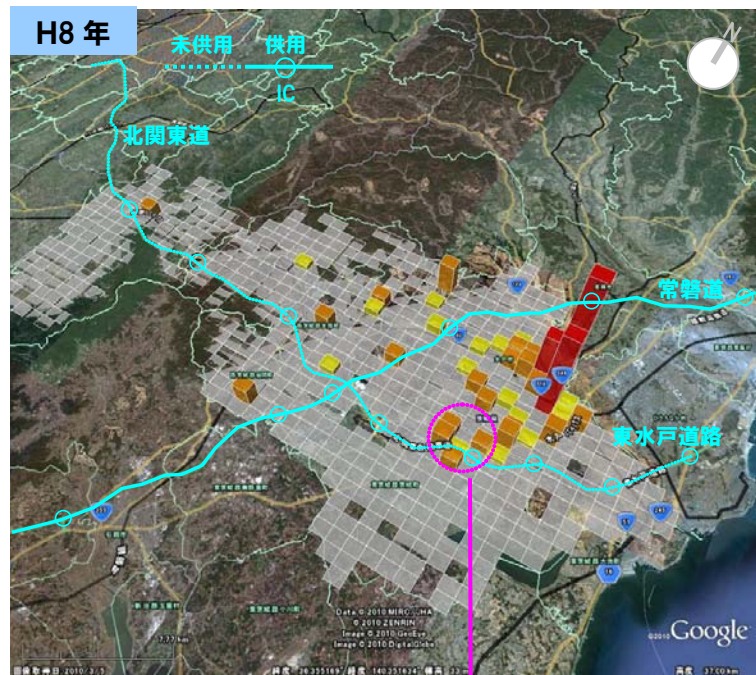


3-2-2 高速道の整備効果

道路の開通時期とその前後の事業所や従業者数の変化を見ることにより、道路整備による企業誘致などの効果を検証する基礎資料として活用することができます。

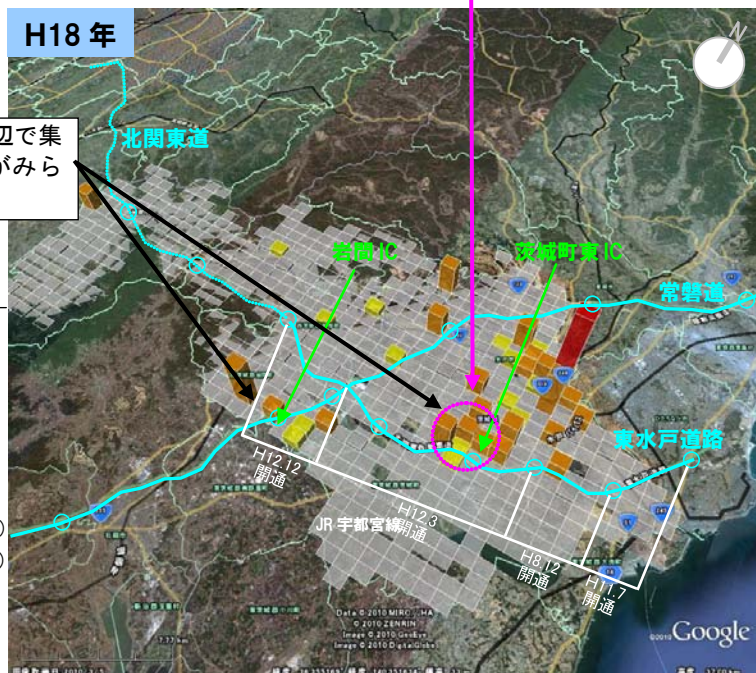
ここでは、北関東自動車道の開通前後について、関連の深い業態と考えられる製造業、運輸業の変化をみます。

高さ : 各年運輸業従業者数
色 : 各年運輸業従業者数密度



茨城町東 IC 周辺
 9 メッシュの従業者数
 H8 460 人→H18 734 人

・茨城町東 IC、岩間 IC 周辺で集積が高まっている状況がみられます。



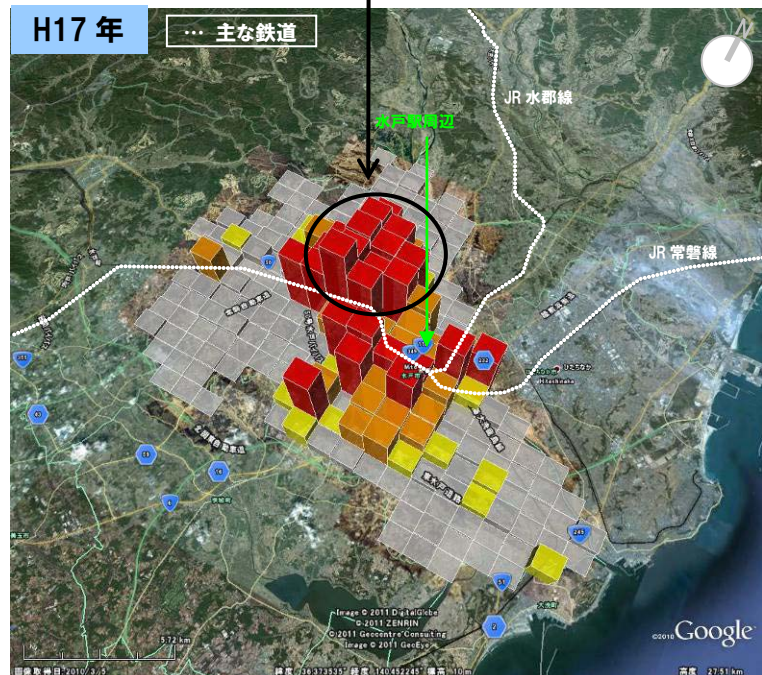
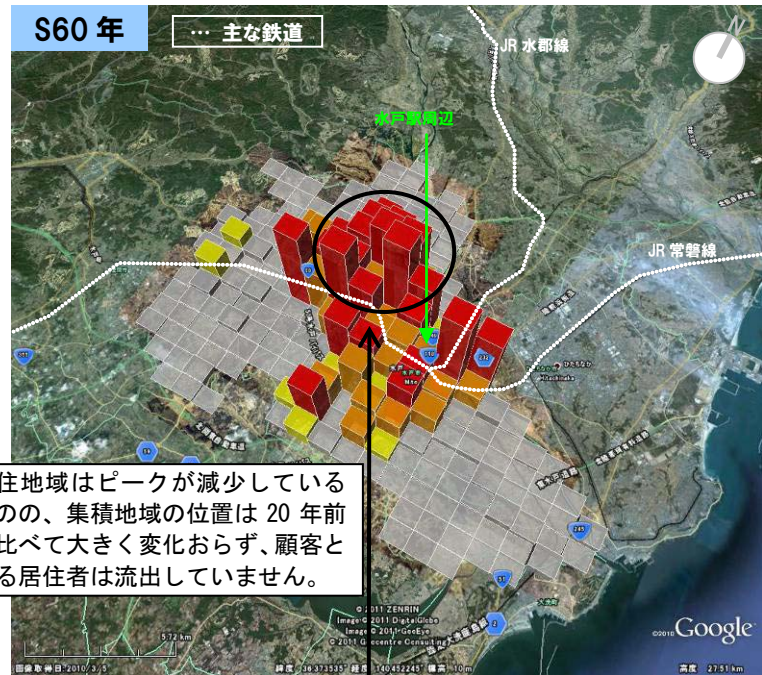
凡 例

メッシュサイズ	1km×1km
高 さ	運輸業従業者数
色	運輸業従業者数密度
	■ 500 人/k m ² ~
	■ 100~500 人/k m ²
	■ 50~100 人/k m ²
	■ 0~50 人/k m ²
出 典	高さ:H8, 18 事業所・企業統計(総務省)
	色 :H8, 18 事業所・企業統計(総務省)
下絵の凡例	— 鉄道
	— 道路
	— 高速道路

3-3 中心市街地と商業(中心市街地の現状分析)

中心市街地の人口や小売業販売額の経年変化を可視化することにより、中心市街地の繁栄や衰退の状況を明らかにすることができます。中心市街地活性化の検討の基礎資料として活用できます。

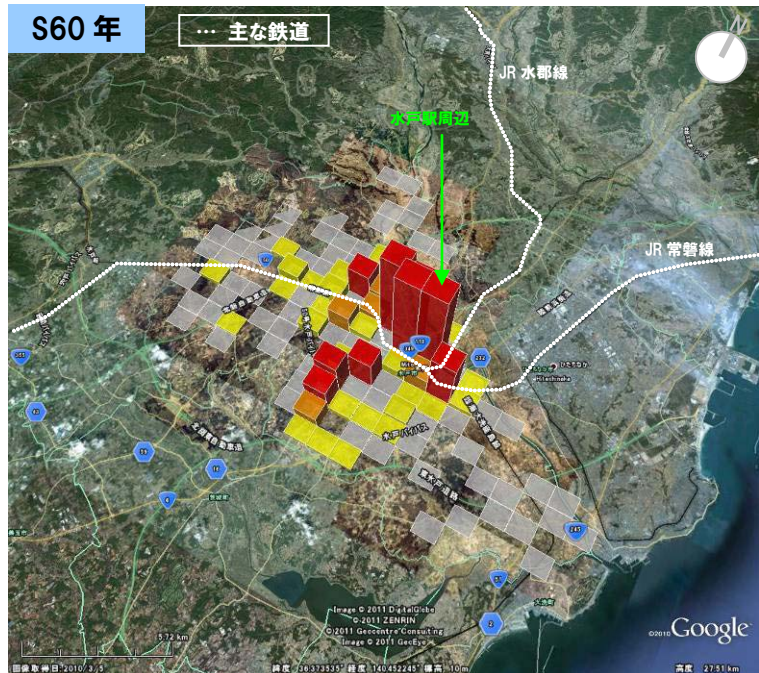
高さ : 各年夜間人口
色 : 各年夜間人口密度



凡 例

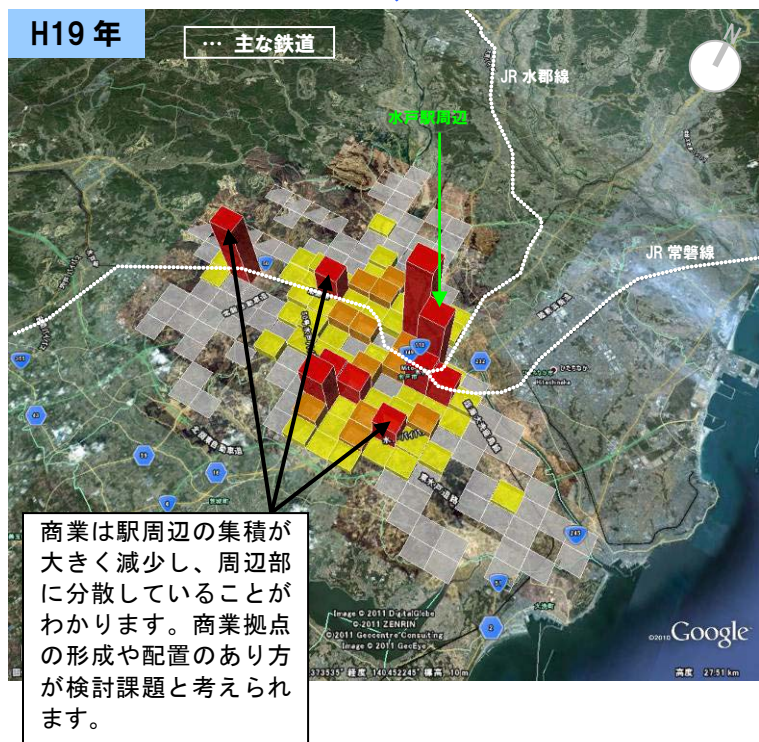
メッシュサイズ	1km×1km
高 さ	夜間人口
色	夜間人口密度
	■ 4,000 人/k m ² ~
	■ 2,000~4,000 人/k m ²
	■ 0~2,000 人/k m ²
出 典	高さ : S60, H17 国勢調査(総務省)
	色 : S60, H17 国勢調査(総務省)
下絵の凡例	— 鉄道
	— 道路
	— 高速道路

高さ : 各年小売業年間販売額
色 : 各年小売業年間販売額密度



凡 例

メッシュサイズ	1km × 1km
高 さ	小売業年間販売額
色	小売業年間販売額
	100 億円/k m²~ 50~100 億円/k m² 10~50 億円/k m² 0~10 億円/k m²
出 典	高さ: S60、H19 商業統計(経済産業省) 色 : S60、H19 商業統計(経済産業省)
下絵の凡例	— 鉄道 — 道路 — 高速道路



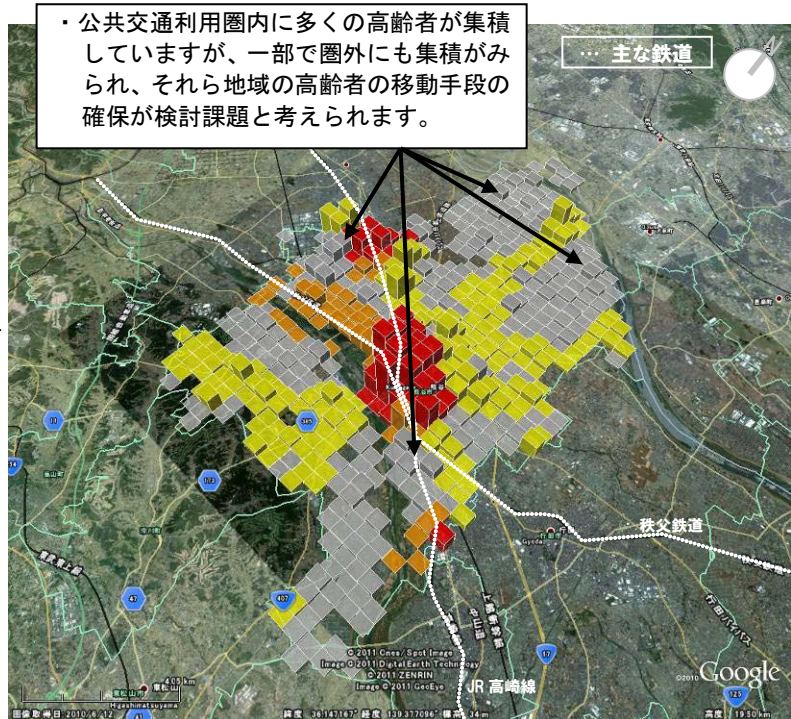
3-4 高齢化社会(高齢者の生活利便性)

公共交通や医療施設などの配置と高齢者人口の集積の状況を見ることにより、高齢者の日常生活の利便性を可視化することができます。高齢化時代に対応したまちづくりの検討の基礎資料として活用できます。

高さ : 65 歳以上夜間人口
色 : 公共交通利用圏

凡 例

メッシュサイズ	500m × 500m
高 さ	65 歳以上夜間人口
色	公共交通利用圏
	駅・バス利用圏 駅利用圏 バス利用圏 駅・バス利用圏外
出 典	高さ : H17 国勢調査(総務省) 色 : プラトラス全施設データ(アルプス社)
下絵の凡例	鉄道 道路 高速道路

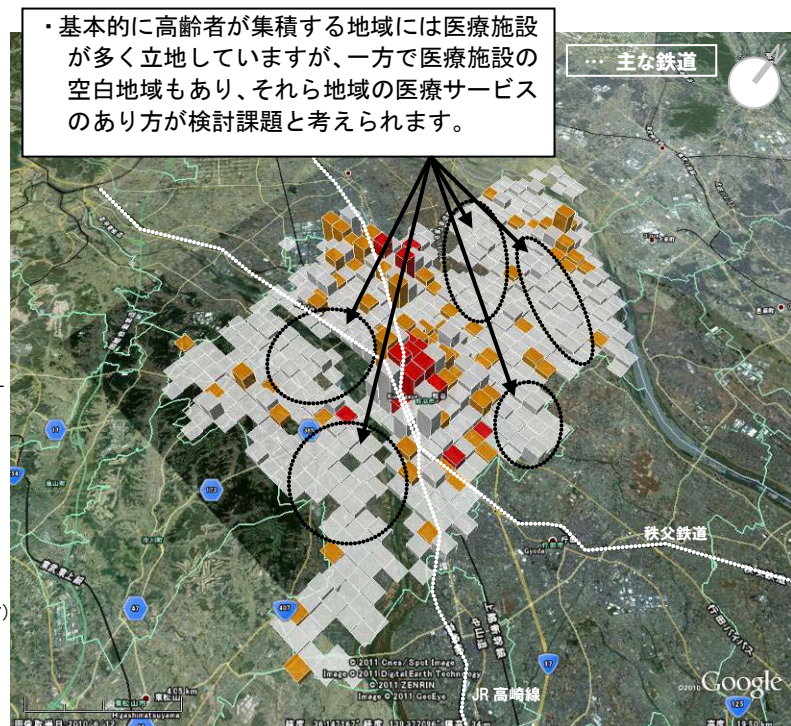


※駅利用圏 : 駅から半径 1km の範囲に位置するメッシュです。
バス利用圏 : バス停から半径 300m 範囲に位置するメッシュです。

高さ : 65 歳以上夜間人口
色 : 病院・一般診療所数

凡 例

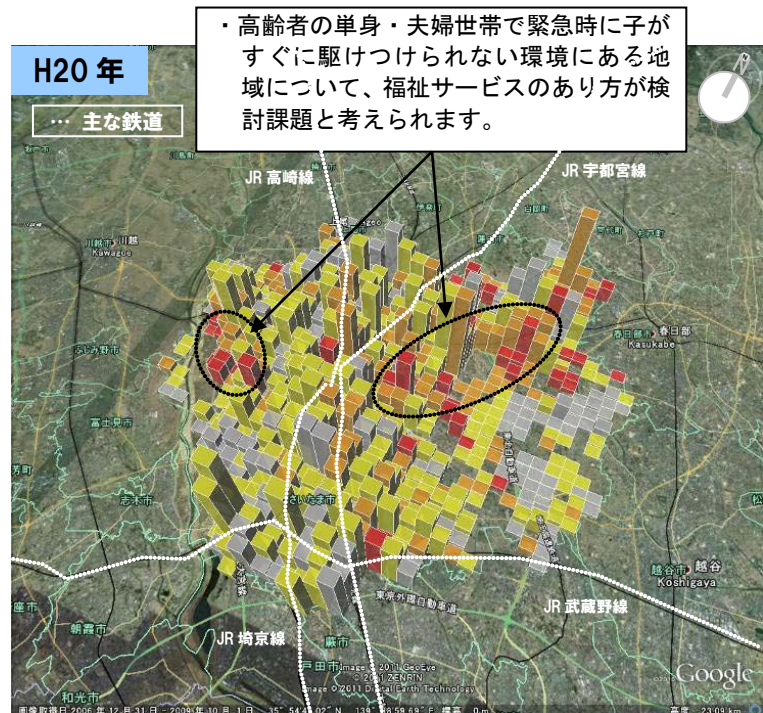
メッシュサイズ	500m × 500m
高 さ	65 歳以上夜間人口
色	病院・一般診療所事業所数
	2~ 1 0
出 典	高さ : H17 国勢調査(総務省) 色 : H18 事業所・企業統計(総務省)
下絵の凡例	鉄道 道路 高速道路



高さ : 高齢夫婦世帯数及び
高齢単身世帯数の合計
色 : 片道1時間以上に子が住む
世帯割合

凡 例

メッシュサイズ	500m×500m
高 さ	高齢夫婦世帯数＋高齢単身世帯数
色	片道1時間以上に子が住む世帯割合 ■ 15%～ ■ 10～15% ■ 5～10% ■ 0～5%
出 典	高さ: H17 国勢調査(総務省) 色: H20 住宅・土地統計調査(総務省)
下絵の凡例	— 鉄道 — 道路 — 高速道路



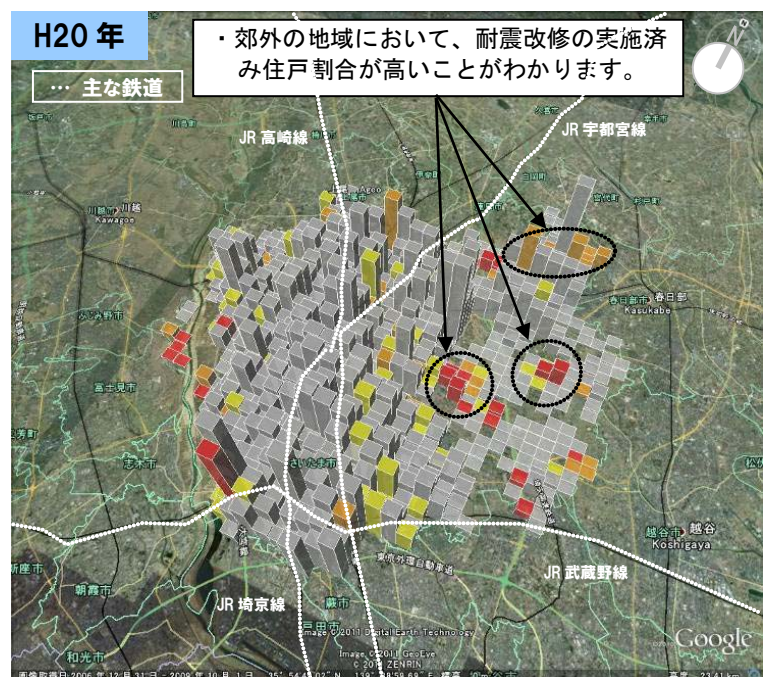
※本データは総務省統計局「住宅・土地統計調査」の調査票情報を独自集計したものである。

※「住宅・土地統計調査」は標本調査であることから、標本誤差に留意が必要である。

高さ : 高齢夫婦世帯数及び
高齢単身世帯数の合計
色 : 耐震改修実施済住戸の割合

凡 例

メッシュサイズ	500m×500m
高 さ	高齢夫婦世帯数＋高齢単身世帯数
色	耐震改修実施済住戸の割合 ■ 5%～ ■ 2～5% ■ 1～2% ■ 0～1%
出 典	高さ: H17 国勢調査(総務省) 色: H20 住宅・土地統計調査(総務省)
下絵の凡例	— 鉄道 — 道路 — 高速道路



※本データは総務省統計局「住宅・土地統計調査」の調査票情報を独自集計したものである。

※「住宅・土地統計調査」は標本調査であることから、標本誤差に留意が必要である。

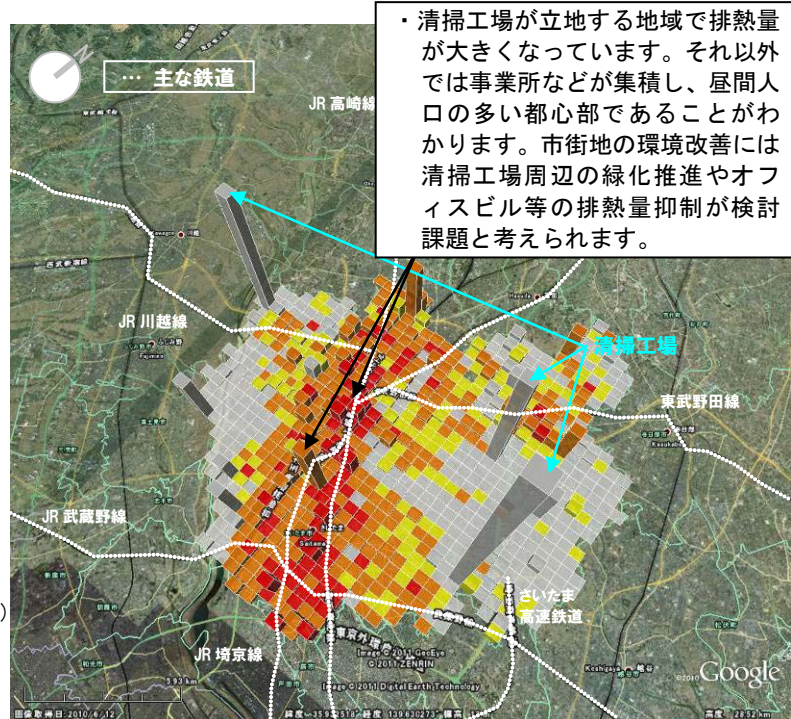
3-5 環境(人工排熱量と人口集積の関係)

人工排熱量と人口の集積の状況を見ることにより、メッシュごとの環境負荷の状況を可視化することができます。低炭素まちづくりの検討の基礎資料として活用できます。

高さ : 日平均人工排熱量
色 : H12 昼間人口

凡 例

メッシュサイズ	500m×500m
高さ	日平均人工排熱量
色	昼間人口
	5,000 人/k m²~ 1,000~5,000 人/k m² 500~1,000 人/k m² 0~500 人/k m²
出 典	高さ: ヒートアイランド現象実態調査(埼玉県) 色: H12 リンク統計(総務省)
下絵の凡例	— 鉄道 — 道路 — 高速道路



3-6 安全・安心(想定水害と人口集積)

河川の洪水時の想定浸水深と人口集積の状況を見ることにより、メッシュごとの浸水被害の大きさをみるすることができます。防災まちづくりの検討の基礎資料として活用できます。

高さ : 夜間人口
色 : 浸水深

※表示範囲は多摩川流域のメッシュです。

凡 例

メッシュサイズ	500m×500m
高さ	夜間人口
色	浸水深
	4m~ 3~4m 2~3m 1~2m 0~1m
出 典	高さ: H17 国勢調査(総務省) 色: 浸水深データ(国土交通省)
下絵の凡例	— 鉄道 — 道路 — 高速道路



3-7 集約型都市構造に向けた課題

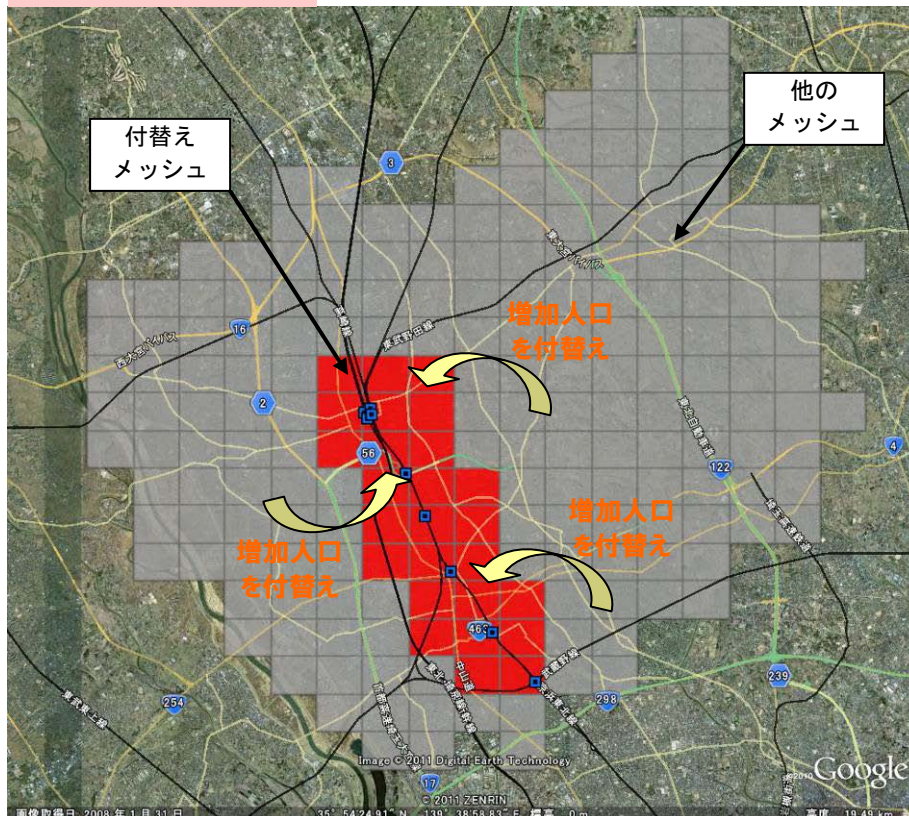
人口の付替えシミュレーションにより将来をみる

2-3(1)③「将来人口の推計値と比較する」で紹介した推計結果をもとに、都市計画マスタープランなどで人口集積の推進が位置づけられている地域に、人口を付替えた場合の人口集積の変化をシミュレートすることができます。集約型都市構造を目指した誘導方策の検討などの基礎資料として活用することができます。

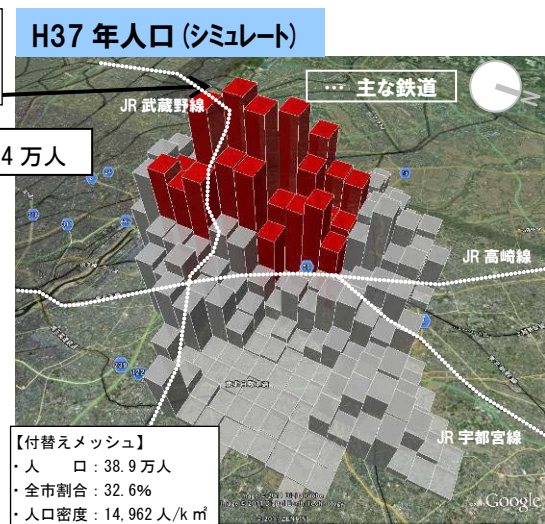
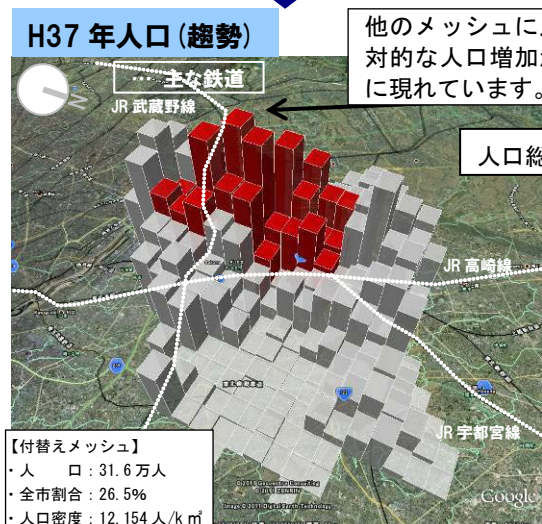
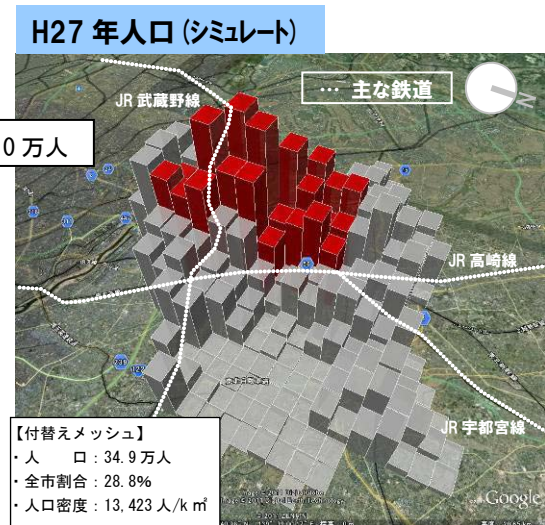
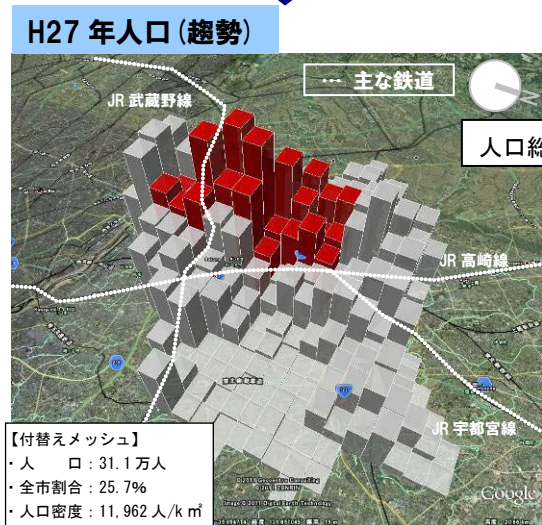
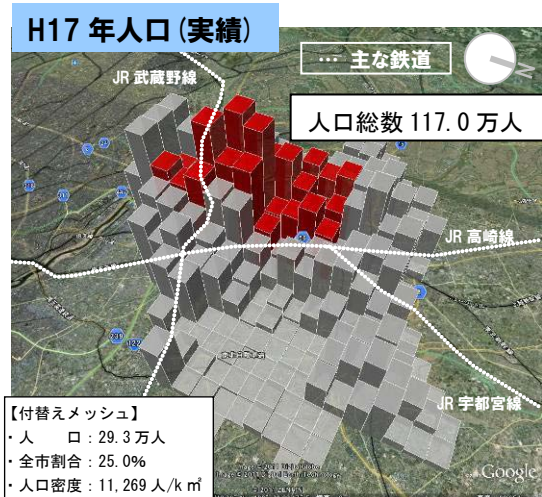
(シミュレーション（人口付替え）の概要）

- ・ 主要な駅から半径 1km の範囲に位置するメッシュ（下図赤色メッシュ）を付替えメッシュに設定し、コーホート変化率法（趨勢）を用いた人口推計により算出された他のメッシュ（下図灰色メッシュ）の増加分を付替えメッシュに付替えます（他のメッシュは H17 年人口を維持又は減少と設定）。
- ・ 人口の付替えは、他のメッシュの増加分を付替えメッシュに均等に付替えます。

付替えメッシュの設定



- ・ 付替えの結果として、付替えメッシュ人口の全市割合は、趨勢ではH17から微増傾向であったものの、付替え後はH37でH17に比べ7.6%と大きく増加することになり、図からも相対的な増加をみることができます。
- ・ この結果を活用して、公共交通や公共施設の利用圏人口の変化などをみることで、人口の付替え（誘導）による効果を分析することができます。



三次元表示システムを活用した都市構造分析のご案内

ここまで、都市構造可視化の様々な活用アイデアを紹介してきましたが、検討会では可視化するための必要なデータとして、平成23年3月時点で以下のようなデータを保有しています。

＜参考＞ 都市構造分析に活用可能なデータ（H23.3 時点）

- ・ 国勢調査（総人口、5歳階級別人口、産業別就業者数など）
- ・ 事業所・企業統計調査（産業別事業所数及び従業者数、規模別事業所数及び従業者数など）
- ・ 国勢調査、事業所統計調査のリンクによる地域メッシュ統計（昼間人口、昼夜間人口比など）
- ・ 商業統計（業種別事業所数、従業者数、年間販売額など）
- ・ 工業統計（業種別事業所数、従業者数、製造品出荷額など）
- ・ 住宅・土地統計調査（住宅及び住環境に関する事項）
- ・ 区域区分データ
- ・ 駅・バス利用圏データ

本書に掲載したもの以外にも、都市計画基礎調査などで場所のわかるデータがあれば上記のデータと組み合わせて表示することにより、多様な分析をすることができます。

本システムを活用するにあたっては、市町村等の行政機関を対象とした「都市構造可視化行政連絡会」に入会して頂く必要があります。入会は無料ですが、「都市構造分析の可視化」に関する取り組みを今後とも深めていくため、以下についてお願いしております

○入会時に自治体で保有する、都市に関するデータ（1つ以上）の提供をお願いします。

○行政連絡会より提供したデータに関して、活動成果の報告をお願いします。

※行政連絡会に入会頂くと、事務局への図面作成の申請や都市の基礎的な分析カルテの提供等の特典が受けられます。

詳細はホームページからご覧いただくか、下記の連絡先までお問い合わせください。

http://www.ktr.mlit.go.jp/city_park/shihon/city_park_shihon00000209.html

お問い合わせ先	電話番号
国土交通省 関東地方整備局 建政部都市整備課 都市構造可視化担当	048-600-1907
茨城県 土木部都市局都市計画課	029-301-4588
栃木県 県土整備部都市計画課	028-623-2468
群馬県 県土整備部都市計画課	027-226-3654
埼玉県 都市整備部都市計画課	048-824-2111
千葉県 県土整備部都市計画課	043-223-3375
東京都 都市整備局都市づくり政策部広域調整課	03-5321-1111
神奈川県 県土整備局環境共生都市部都市計画課	045-210-1111
山梨県 県土整備部都市計画課	055-223-1716
長野県 建設部都市計画課	026-235-7297

※本書に掲載している図面は、統計値を機械的に処理している為、都市の実態と部分的に一致しないことがあります。